

(写)

資料 1

政 発 第 5 8 号

令和 4 年 1 0 月 3 1 日

鶴岡市総合計画審議会

会 長 武 田 真 理 子 様

鶴岡市長 皆 川



第 2 次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しについて（諮問）

鶴岡市総合計画審議会条例（平成 1 7 年鶴岡市条例第 2 6 2 号）第 2 条の規定に基づき、第 2 次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しについて諮問します。

（諮問の趣旨）

本市は、2 0 1 9（平成 3 1）年 3 月に、「ほんとうの豊かさを追求する みんなが暮らしやすい 創造と伝統のまち 鶴岡」をめざす都市像とする第 2 次鶴岡市総合計画を策定しました。

この間、新型コロナウイルス感染症、ロシアのウクライナ侵略による輸入資源価格高騰、人口減少・少子高齢化、災害の頻発化・激甚化など、内外の難局が同時かつ複合的に押し寄せ、市民生活や経済社会に影響が生じています。

こうした社会経済情勢の変化に中長期的な視点で適切に対応して持続的に発展するまちを実現するため、このたび総合計画基本計画の中間見直しが必要であると判断したところです。

総合計画に掲げるめざす都市像の実現をめざし、第 2 次鶴岡市総合計画後期基本計画を策定したいと考えますので、貴審議会の意見を求めます。

## 第2次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しについて

### 1. 後期基本計画策定の趣旨

本市は、平成31年3月に「ほんとうの豊かさを追求する みんなが暮らしやすい 創造と伝統のまち 鶴岡」をめざす都市像とする「第2次鶴岡市総合計画」を策定した。

この総合計画では、めざす都市像やまちづくりの基本方針などを定めた「基本構想」と施策の基本的方向及び体系をまとめた「基本計画」から構成されており、「基本計画」については、必要に応じ5年をめぐりに見直すこととしている。

この間、地域を取り巻く環境は、少子高齢化に伴う人口減少の進行や新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行、新型コロナを契機とした生活様式の変化や働き方の多様化、さらにはロシアのウクライナ侵攻などに伴う原油・原材料等の国際価格の高騰、日本海山形県沖地震をはじめとした自然災害の頻発化・激甚化など、内外の難局が同日かつ複合的に押し寄せている。

こうした社会経済情勢の変化を踏まえるとともに、本市が抱える課題に的確に対応し、地域資源を基盤として、デジタル化の推進などの未来につながる変化も捉えながら、市内外の活力を呼び込み、市民が暮らしやすさを実感し、将来にわたって持続可能なまちであり続けることを目指し、第2次総合計画後期基本計画を策定する。

### 2. 策定に向けた基本的な考え方

後期基本計画の策定に当たっては、社会経済情勢などの変化を踏まえ、市民意識の変化や地域の実態、課題等を明らかにするとともに、これまでに実施した施策の点検評価を行い、今後進めていく施策の方向性などについて、総合計画審議会、各専門委員会、庁内幹事会等を開催しながら検討を行う。

また、見直しに際しては、若者で構成される「鶴岡まちづくり塾プラス」、旧町村単位に設置されている「地域振興懇談会」の他にも、中高生をはじめとした若者の意見を把握するため、デジタルを活用したアンケートや市民ワークショップ、パブリックコメント等の手法により市民の参画を促し、対話や市民目線を重

視した計画策定に努める。

また、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）に基づき、人口減少の克服、地方創生の実現をめざし策定した「鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と一体のものとして策定する。

これらの計画策定作業は、令和4年度から2か年で行い、令和5年度中の策定をめざす。

### 3. 総合計画の構成と計画期間

#### (1) 構成

総合計画は、基本構想、基本計画及び実施計画をもって構成する。

##### ① 基本構想

本市のめざす都市像とまちづくりの基本方針を明らかにし、それらを実現するための施策の大綱、計画の推進方針等を示す。

##### ② 基本計画

基本構想に掲げる都市像を実現し、基本方針に沿ったまちづくりを行うため、施策の方向と主な施策、施策の達成度を測る成果指標（KPI）を設ける。基本計画は、必要に応じ5年間をめどに見直すことにする。

##### ③ 実施計画

総合計画の基本構想及び基本計画を推進するため、社会情勢や財政状況、地域の実情等を勘案し、毎年度、市が向こう3年間に取り組むべき具体的な取組を示す。

#### (2) 計画期間

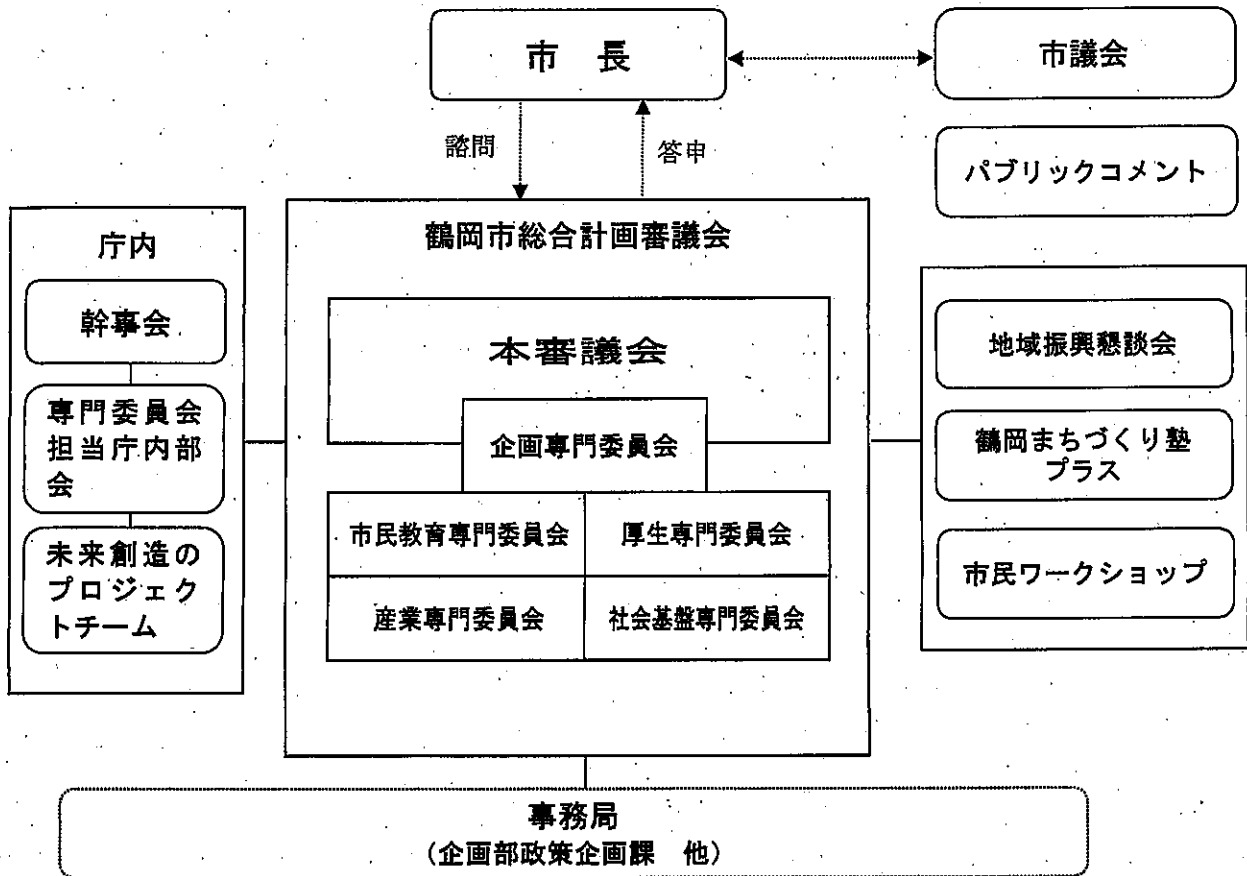
##### ① 基本構想

計画期間は、令和元（2019）年度から令和10（2028）年度までの10年間とする。

##### ② 基本計画

令和5（2023）年度に見直した基本計画を後期基本計画とし、その計画期間は、令和6（2024）年度から令和10（2028）年度までの5年間とする。

#### 4. 総合計画基本計画の中間見直し検討体制



#### (1) 総合計画審議会

##### ① 総合計画審議会

鶴岡市総合計画審議会条例第1条に基づき設置し、市議会議員、知識経験者、関係行政機関の職員及び団体の役員、並びに市民の代表者による35名以内の委員で組織する。

市長の諮問に応じ、総合計画の策定に関し必要な調査及び審議を行う。

##### ② 専門委員会

鶴岡市総合計画審議会条例第8条に基づき設置し、各分野における政策課題、主要テーマ、施策の方向性等について、専門的な見地から調査、審議する。

なお、分野横断的な課題等については、庁内関係部署で協議、検討し、必要に応じ専門委員会を合同開催して検討する。

委員は、分野毎で関係団体や専門的見識を有する方などから選任する。

委員長及び委員長職務代理者を置き、委員長については委員による互選により選出し、委員長職務代理者については委員長が指名する。

専門委員会名	所 管 事 項	担当部等
企 画 専 門 委 員 会	市政運営の基本理念等に関する事 専門委員会の総合調整に関する事 まちづくり（公共施設の整備含む）、未 来創造のプロジェクト、デジタル化の推 進、移住・定住の促進、都市交流、国際 化の推進等に関する事	総務部 企画部
市 民 教 育 専 門 委 員 会	地域コミュニティの活性化、過疎地域の 活性化、環境保全対策、防災・防犯対策 の推進、教育・文化・スポーツの振興、 学校給食等に関する事	市民部 消防本部 教育委員会
厚 生 専 門 委 員 会	子育て支援、健康増進、福祉の充実、地 域医療体制等に関する事	健康福祉部 荘内病院
産 業 専 門 委 員 会	農林水産業、商工業、観光の振興、地域 経済の活性化等に関する事	農林水産部 農業委員会 商工観光部
社 会 基 盤 専 門 委 員 会	都市基盤の整備、交通環境の充実、公共 施設の管理等に関する事	建設部 上下水道部

## (2) 市民の意見の反映

### ① 地域振興懇談会

旧町村単位で設置されている地域振興懇談会において、各地域の振興方針について意見を聴取する。

### ② 鶴岡まちづくり塾プラス

若者世代で構成される鶴岡まちづくり塾プラスにおいて、今後の地域づくりに対する意見を聴取する。

### ③ 市民ワークショップ

多様な市民の意見を反映させるためワークショップを開催する。

### ④ パブリックコメント

総合計画審議会より答申を受けた総合計画後期基本計画（案）について、ホームページに掲載し、広く市民の意見を募集する。

### ⑤ アンケート

市民の意見を反映させるためデジタル等を活用し、広く市民の意見を募集する。

(3) 事務局体制

① 総合計画審議会幹事会

副市長以下、次の職にある職員を総合計画審議会幹事とし、幹事をもって幹事会を設置し、審議会事務を総括する。

<総合計画審議会幹事> 27名

副市長、教育長、総務部長、企画部長、市民部長、市民部危機管理監、健康福祉部長、農林水産部長、商工観光部長、建設部長、藤島庁舎支所長、羽黒庁舎支所長、櫛引庁舎支所長、朝日庁舎支所長、温海庁舎支所長、荘内病院事務部長、上下水道部長、教育部長、議会事務局長、消防長、総務課長、総務課主幹、財政課長、職員課長、地域振興課長、政策企画課長、政策企画課主幹

② 専門委員会担当庁内部会

総合計画審議会の専門委員会ごとに担当部課長等による専門委員会担当庁内部会を設置し、基本計画見直し原案の調整等を行う。

各専門委員会担当庁内部会の構成員は、次のとおりとする。

名 称	構 成 員
<p>企画専門委員会 担当庁内部会</p> <p>(事務局：政策企画課)</p>	<p>総務部長、<u>企画部長</u>、各庁舎支所長、総務課長、総務課主幹、財政課長、財政課主幹、職員課長、職員課主幹、デジタル化戦略推進室長、政策企画課長、政策企画課主幹兼若者・子育て世代応援推進室長、食文化創造都市推進課長、地域振興課長、情報企画課長、環境課長、地域包括ケア推進室長、産業強化イノベーション推進室長、都市計画課市民参画のまちづくり推進主幹兼城下のまちづくり推進室長、各庁舎総務企画課長</p>
<p>市民教育専門委員会 担当庁内部会</p> <p>(事務局：コミュニティ推進課)</p>	<p>市民部長、危機管理監、消防長、消防次長兼消防署長、教育部長、各庁舎支所長、若者・子育て世代応援室長、食文化創造都市推進課長、地域振興課長、市民課長、コミュニティ推進課長、防災安全課長、環境課長、廃棄物対策課長、廃棄物対策課施設主幹、消防本部総務課長、予防課長、警防課長、管理課長、学校教育課長、学校教育課指導主幹、社会教育課長兼藤沢周平記念館長、社会教育課文化財主幹、スポーツ課長、中央公民館長、図書館長、学校給食センター所長、各庁舎総務企画課長、各庁舎市民福祉課長</p>

<p>厚生専門委員会 担当庁内部会</p> <p>(事務局：地域包括ケア推進推進室)</p>	<p>健康福祉部長、荘内病院事務部長、各庁舎支所長、地域包括ケア推進室長、健康課長、健康課主幹、福祉課長、長寿介護課長、子育て推進課長、子育て推進課主幹兼子ども家庭支援センター所長、国保年金課長、荘内病院総務課長、施設管理主幹、医事課長、各庁舎市民福祉課長</p>
<p>産業専門委員会 担当庁内部会</p> <p>(事務局：商工課)</p>	<p>農林水産部長、商工観光部長、各庁舎支所長、農政課長、循環型農業推進主幹、生産振興主幹、農業委員会事務局長、農山漁村振興課長兼水産振興主幹、林業振興主幹、商工課長、商工企画主幹、産業強化イノベーション推進室長、観光物産課長、各庁舎産業建設課長</p>
<p>社会基盤専門委員会 担当庁内部会</p> <p>(事務局：都市計画課)</p>	<p>建設部長、上下水道部長、各庁舎支所長、都市計画課長、市民参画のまちづくり推進主幹兼城下のまちづくり推進室長、鼠ヶ関IC周辺施設整備推進室長、土木課長、地域調整主幹、建築課長、上下水道部総務課長、水道課長、下水道課長、下水道課主幹兼浄化センター所長、工務主幹、契約管財課長、地域振興課長、情報企画課長、各庁舎産業建設課長</p>

※各部会に部会長及び部会事務局を置き、部会の事務を統括する。

#### 5. 後期基本計画 策定スケジュール (別紙1参照)

総合計画後期基本計画の策定については、総合計画審議会において令和5年1-2月を目途に取りまとめ、令和6年3月までの策定を目標として進めることとする。

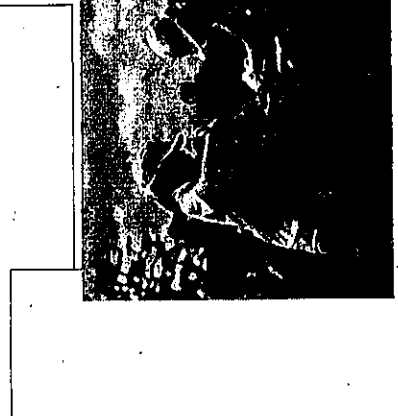
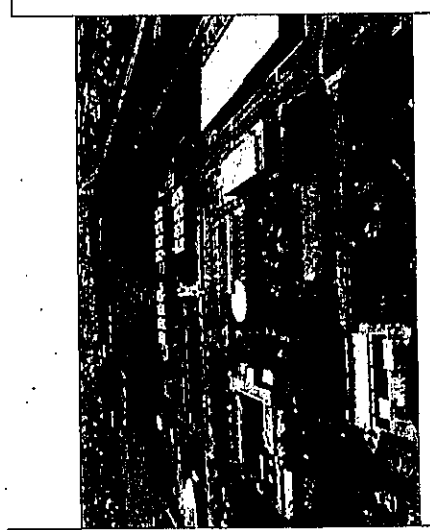
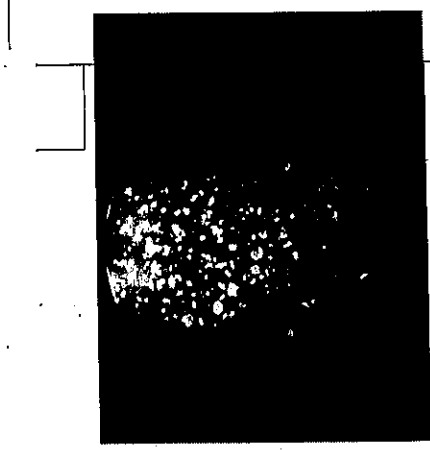
総合計画後期基本計画策定全体スケジュール(案)

月	市	庁内検討部会			市民からの意見徴取
		審議会	企画専門委員会	各専門委員会	
R4/10	幹事会 ○審議会委員の選任 ○各専門委員会委員の選任	第1回 ・第2次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しについて			
11					
12			第1回 ・前期基本計画の評価・検証 ・後期基本計画策定の視点等について	第1回 ・委員長選出等 ・前期基本計画の評価・検証 ・後期基本計画策定の視点等について	アンケート調査 ・中高生の市政への参画意向
R5/1	幹事会				鶴岡まちづくり塾プラス ・意見募集
2	市議会議員への説明 ・前期計画の評価・検証	第2回 ・今後5か年の施策の方向性等について ・未来創造のプロジェクトについて	第2回 ・今後5か年の施策の方向性等について ・未来創造のプロジェクトについて	第2回 ・今後5か年の分野別施策の方向性等について	市民フォーラム 第1回地域振興懇談会 ・前期基本計画の評価・検証 ・今後5か年の施策の方向性等について
3					第1回ワークショップ
4			第3回 ・施策の方向、重点施策(案)等について ・未来創造のプロジェクトの構成案案について	第3回 ・大綱別の施策の方向、重点施策(案)等について ・総合計画後期基本計画の体系(案)について	鶴岡まちづくり塾 ・意見募集、とりまとめ 第2回ワークショップ
5					第2回地域振興懇談会 ・地域別の施策の方向、重点施策等について
6			第4回 ・総合計画後期基本計画の構成案案について ・未来創造のプロジェクト(案案)について		第3回ワークショップ
7	幹事会	第3回 ・総合計画後期基本計画の構成案案について ・施策の方向、重点施策(案)等について ・未来創造のプロジェクト(案)について		第4回 ・総合計画後期基本計画の(案案)について	第3回地域振興懇談会 ・総合計画後期基本計画の(案案)について
8	市議会議員への説明		第5回 ・総合計画後期基本計画の(案案)について		
9	幹事会	第4回 ・総合計画後期基本計画の(案案)について		第5回 ・総合計画後期基本計画の(案案)について	第4回地域振興懇談会 ・総合計画後期基本計画の(案案)について
10			第5回 ・総合計画後期基本計画(案案)について		
11	幹事会	第5回 ・総合計画後期基本計画(案案)について			
12		・第2次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しについて			
R6/1	市議会議員への説明				
2					パブリックコメント
3	第2次鶴岡市総合計画後期基本計画の策定				





# 第2次鶴岡市総合計画基本計画の評価・検証



# 第2次鶴岡市総合計画基本計画の評価・検証の概要

## 1 実施目的

第2次鶴岡市総合計画の進捗状況等について把握し、今後の施策の方向性を検討するための基礎資料として活用することを目的に評価・検証を実施しました。

## 2 評価・検証の視点

第2次鶴岡市総合計画の基本計画では、基本構想に基づき、各分野において行う施策の方向性や実現のための主な施策が記載されています。それらが実現したかどうか、令和元年度から令和4年度までの取組や、基本計画の中項目単位で設定した「成果指標 (KPI) 」により計画の進捗状況等について確認しました。

## 3 評価・検証の方法と枠組み

施策の大綱及び未来創造のプロジェクトについて、評価調査の作成と庁内ヒアリングを実施し、これまでの取組内容や課題、今後の方向性等について、7つの施策の大綱と7つの未来創造のプロジェクト別に概要としてとりまとめました。

## 4 本概要の形式

基本計画の中項目単位で、これまでの取組状況を振り返ります。

### (1) 助け合い、支え合う地域コミュニティづくりの推進

住民自治組織が主体的に行う地域ビジョン策定や地域課題解決に向けた取組等を多面的に支援することとで、組織強化・担い手の確保・育成につなげるとともに、地域特性を活かした住民主体による持続可能な地域づくりを推進する。あわせて、優良事例の情報提供等を通じ、すべての住民自治組織のまちづくり意識の向上を図り、主体的な取組を促していく。また、婚活支援では、各種事業の実施により成婚に至った件数は着実に増えており、引き続き結婚を希望する若者を後押しする。

#### A 住民主体の担い手づくりの推進

・地域ビジョン策定や地域課題解決の取組等、住民が主体的に行うまちづくり活動に対し、アドバイザー一機員の派遣やワークショップ支援、研修会の開催等により支援した。

#### I 住民自治組織の強化と地域活動の担い手の育成

・住民自治組織の体制整備や人材確保、まちづくり活動等を総合的に支援した。  
・コミセン等の改修等を行い、地域活動の拠点施設としての機能維持を図る。また、コミセン等へ公衆無線LAN施設を設置し、リモート研修やWeb会議等が開催できるよう支援を行った。

#### 地域ビジョンの策定件数

現状値	4件 2021年度	目標値	11件 2021年度	成果指標	20件 2022年度
					進捗: B

基本計画の中項目単位で、これまでの取組状況を振り返ります。

施策の成果指標 (KPI) の「進捗」について  
 「A」: 成果指標とする数値を達成した又は達成に近い状況である  
 「B」: 成果指標とする数値の達成を目指す取組が順調に推移又は現状値(初期値)よりも進展がある  
 「C」: 現状値(初期値)から進展がない又は後退した  
 「D」: データが未計測もしくは有効な数値がない又は施策効果の発現・把握が今後になるもの

環境を保全し、一人ひとりが尊重され、心が通い合い、お互いを見守り支え合う、安全で安心して暮らせる地域コミュニティを構築します

暮らしと防災

(1) 助け合い、支え合う地域コミュニティづくりの推進

住民自治組織が主体的に行う地域ビジョン策定や地域課題解決に向けた取組等を多面的に支援すること、組織強化、担い手の確保・育成につなげることも、地域特性を活かした住民主体による持続可能な地域づくりを推進する。あわせて、優良事例の情報提供等を通じ、すべての住民自治組織のまちづくり意識の向上を図り、主体的な取組を促していく。また、婚活支援では、各種事業の実施により成婚に至った件数は着実に増えており、引き続き結婚を希望する若者を後押しする。

ア 住民主体の地域づくりの推進

- ・地域ビジョン策定や地域課題解決の取組等、住民が主体的に行うまちづくり活動に対し、アドバイザー職員の派遣やワークショップ支援、研修会の開催等により支援した。

イ 住民自治組織の体制整備や人材確保、まちづくり活動を総合的に支援

- ・住民自治組織の体制整備や人材確保、まちづくり活動を総合的に支援した。
- ・コミセン等の改修等を行い、地域活動の拠点施設としての機能維持を図る。また、コミセン等へ公衆無線LAN機器を設置し、リモート研修やWeb会議等が開催できるよう支援を行った。

ウ 結婚を希望する若者を地域社会全体で支援できるまちづくりの推進

- ・「つるおおかたシエルージュ」による1対1のお見合い支援やショッピングモールでの結婚相談会を開催した。
- ・結婚に伴う新生活のスタートアップ費用に対する支援制度を開始した。
- ・つるおおかたシエルージュに加盟する企業・自治会と連携した婚活イベント、婚活セミナーや、市主催の婚活イベントとして地域資源を活かした「つるおおかたシエルージュ」を開催した。

(2) 地域の防災・防犯力の強化

地域の防災力の強化に向けて、自主防災組織指導者講習会等を開催することで、地域の防災リーダーの育成が図られた。自主防災の活動に女性や若者目線での意見を取り入れ、多様な層や年代の参加を促していく。また、地域防犯活動の積極的な展開を図るため、引き続き警察や防犯協会等と連携を推進していく。

ア 防災体制の強化

- ・防災関連計画及び各種マニュアルを策定した。
- ・防災訓練や防災設備の整備や災害避難訓練、避難所開設、運営訓練の実施により初期体制整備を図った。

イ 地域防犯力の確保

- ・地域防犯アドバイザーを募集し、市主催講習会や各地区で実施する研修等に派遣し、地域防犯力と人材育成の強化に取り組んだ。
- ・地区防犯計画の作成や見直しを検討している組織に対し、サンプルの提供や計画内容について助言を行い支援した。

ウ 地域防犯体制の強化

- ・防犯のほり旗の設置、防犯パトロール等の活動を支援した。
- ・鶴岡市防犯協会の活動を支援した。

エ 交通安全教育の推進

- ・交通安全指導員による小学校等での交通安全教育を実施した。
- ・運転免許の自主返納者に対し、公共交通機関（バス・タクシー）の回数券等を交付した。

刑法定罪認知件数

現状値	428件 (2017年度)	R3実績値	310件 (2021年度)	成果指標	355件 (2028年度)
			差歩：A		

年間交通事故死傷者数

現状値	678人 (2017年度)	R3実績値	422人 (2021年度)	成果指標	450人以下 (2028年度)
			差歩：A		

(3) 消防・救急体制の充実・強化

消防分署の改築整備や消防救急車両・資機材の更新整備、救急救命体制の整備・充実を図るとともに、消防団の負担軽減など基盤強化を進めた。また、県や県内消防本部と広域応援計画の見直しや、訓練等を通じ、消防活動の広域連携強化が図られた。

ア 消防力の維持・強化

- ・熊鷹分署を改築し、朝日分署の改築にむけた実施設計に着手した。
- ・高機能消防指令センターを部分更新し、長寿命化に取り組んだ。
- ・聴覚障害者対応のNET119システム、外国人対応の三者通訳を導入し、消防力の強化を図った。

イ 消防団の推進

- ・高齢者世帯への訪問等を通じた火災予防、防火対策の普及啓発を行った。
- ・消防団装備に重大な違反がある対象物件に対し、違反公表制度等を活用し、市HPで公表した。

ウ 新たな救命体制の整備・充実

- ・計画的な救急救命士、救急隊員の育成、高規格救急自動車等及び高度救急処置用資機材の更新整備や心電図伝送システム、多言語翻訳アプリ（救急ボイスト）の導入を行った。
- ・市民向けの応急手当講習会を開催した。

エ 消防団員の確保と非営利消防団・団員の基盤

- ・消防団員の負担軽減のため、消防団活動のあり方の検討を開始した。
- ・再統合計画を策定し、組織再編を推進するとともに、班の統合に合わせた資機材整備を進め、機動力の強化等を図った。

(4) 過疎地域の活性化

集落支援員や地域おこし協力隊の配置を進めるとともに、生活基盤の維持・強化を図るための「小さな拠点づくり」を支援することにより、中山間地域における集落対策の推進が図られた。

ア 中山間地域における集落対策の推進

- ・全市計画として過疎対策に取り組んでいく鶴岡市過疎地域持続的発展計画（令和5年度～7年度）を策定した。
- ・朝日・温海地域に集落支援員を配置し、集落集落では解決できない課題について、広域コミュニティ化による解決方法を探求した。
- ・朝日地域大瀬地区をモデルとした住民主体の取組を支援した。

環境を保全し、一人ひとりが尊重され、心が通い合い、お互いを見守り支え合う、安全で安心して暮らせる地域コミュニティを構築します

(5) 移住定住の促進

首都圏在住者等に対する移住相談、情報発信、お試し体験、地域の魅力や課題を知る機会の提供などを通じ、本市への移住定住を促進することができた。

- ・移住PR動画の作成（2本）やUターンガイドの更新による情報発信を強化した。
- ・移住コーディネートセンターを中心とした相談体制を強化した。（移住相談171件、移住件数69件）
- ・移住希望者向けのUターンサポートプログラムを実施した。（オンライン4回+フィールドワーク1回）
- ・移住支援金の支給（4件）等、移住支援制度の充実を図った。

現状値	2017年度	39件
R3実績値	2021年度	69件
成果指標	2024年度	55件
進捗：A		

移住定住施策による移住件数（年間）

(6) 環境の保全・美化活動の推進

かけがえのない故郷を、次の世代につないでいくため、豊富なエネルギー資源の最大限の活用と、市民や事業者など多様な主体との連携により、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」に挑戦することを宣言。より強力に防犯協会に協賛する取組を推進していく。また、地域の生活環境の保全と美化活動については、引き続き環境保全推進員等の取組を継続していく。

- ・市施設や議員による温暖化防止対策を実施した。
- ・環境フェアつづらおか、環境出前講座、再エネ理解促進イベント等の開催等による環境問題・環境意識啓発に取り組んだ。

温室効果ガスの削減  
（2015年の温室効果ガス排出量を基準とした削減率）

現状値	2015年度	940,74t-CO <sub>2</sub>
R3実績値	2019年度	861,24t-CO <sub>2</sub>
成果指標	2022年度	755,74t-CO <sub>2</sub>
進捗：A		

- ・自然学習交流館「ほとりあ」を活用した自然体験学習やつらおか緑の時間などの自然体験イベントを開催した。
- ・「ほとりあ」の年間来館者数は当初計画（13,000人）を上回り24,000人となっている。

ウ 移住者の生活環境の保全と美化活動の推進

- ・空き家、空き地の適正管理を促す取組の実施。危険空き家の解体や仮置措置等を実施した。
- ・公署や周辺環境への被害の未然防止のため、事業実施者との環境保全協定を締結した。

エ 地域活動の推進

- ・小学生とその保護者を対象とした環境講座を開催した。
- ・環境に関する意識啓発と情報提供のための広報誌「エコ通信」を発行した。

(7) 資源循環型社会の形成

3Rの推進に向け、ごみの減量・リサイクルを進めるとともに、新たなごみ焼却施設及び一般廃棄物最終処分場の整備や不燃物中間処理施設（リサイクルプラザ）等の長寿命化を進め、安定的で効率的なごみ処理体制を構築した。

- ・ア ごみの減量・リサイクルの推進
  - ・市公式LINEを活用したごみ分別検査機械の提供や休日の資源物の拠点回収の実施によるごみの減量と資源化を推進した。
  - ・取集体制や有料化の検討のため、もやごみの組成分析により、ごみの資源化率を向上させた。
- ・イ 新たなごみ焼却施設の整備
  - ・令和3年4月にごみ焼却発電も行う新たなごみ焼却施設を整備した。
  - ・令和3年9月に新たな一般廃棄物最終処分場を整備した。
- ・ウ 資源物処理体制の維持
  - ・下水道処理との兼用化によるし尿処理方法の検討やリサイクルプラザの適切な維持管理を行った。
  - ・災害時等急変時の体制の維持
    - ・山形県沖地震や令和2年7月豪雨の災害廃棄物について、災害廃棄物処理計画に基づいて円滑に処理した。

現状値	2017年度	12.0%
R3実績値	2021年度	11.7%
成果指標	2024年度	15.4%
進捗：C		

ごみの資源化率  
（ごみ総量のうち資源化した割合）

- ・オ 再生可能エネルギーの促進
  - ・再生可能エネルギー施設設置にかかるガイドラインを策定し、事業者と市民の相互理解のもとで、再生可能エネルギー利用の円滑な推進を図った。
  - ・再生可能エネルギー設備普及促進事業では、太陽光発電設備、木質バイオマス燃焼機器、地中熱利用装置の導入に対して補助を行った。
  - ・市有施設などへの再生可能エネルギーや省エネルギー設備の導入を検討している。

エネルギー自給率

現状値	2017年度	29.4%
R3実績値	2021年度	31.4%
成果指標	2024年度	34.0%
進捗：B		

(8) 持続可能なエネルギーミックスの実現

「鶴岡市地域エネルギービジョン」に基づき、事業者と市民の相互理解のもと円滑な再生可能エネルギー利用の推進を図られるよう、施設の設置等に係るガイドラインを策定した。

- ・再生可能エネルギー施設設置にかかわるガイドラインを策定し、事業者と市民の相互理解のもとで、再生可能エネルギー利用の円滑な推進を図った。
- ・再生可能エネルギー設備普及促進事業では、太陽光発電設備、木質バイオマス燃焼機器、地中熱利用装置の導入に対して補助を行った。
- ・市有施設などへの再生可能エネルギーや省エネルギー設備の導入を検討している。
- ・イ 再生可能エネルギーの促進
  - ・再生可能エネルギー施設設置にかかわるガイドラインを策定し、事業者と市民の相互理解のもとで、再生可能エネルギー利用の円滑な推進を図った。
  - ・再生可能エネルギー設備普及促進事業では、太陽光発電設備、木質バイオマス燃焼機器、地中熱利用装置の導入に対して補助を行った。
  - ・市有施設などへの再生可能エネルギーや省エネルギー設備の導入を検討している。
- ・ウ 再生可能エネルギーの促進
  - ・再生可能エネルギー施設設置にかかわるガイドラインを策定し、事業者と市民の相互理解のもとで、再生可能エネルギー利用の円滑な推進を図った。
  - ・再生可能エネルギー設備普及促進事業では、太陽光発電設備、木質バイオマス燃焼機器、地中熱利用装置の導入に対して補助を行った。
  - ・市有施設などへの再生可能エネルギーや省エネルギー設備の導入を検討している。

環境を保全し、一人ひとりが尊重され、心が通い合い、お互いを見守り支え合う、安全で安心して暮らせる地域コミュニティを構築します

(9) 市民に寄り添った窓口サービスの推進

繁忙期の臨時窓口の開設やコンビニエンスストアでの証明書交付の促進などによる市民の利便性の向上、負担軽減を図った。また、相談・支援体制の強化により、市民一人ひとりに寄り添った窓口サービスを提供した。

ア 窓口サービスの充実

- ・ コンビニエンスストアで各種証明書を交付し、利用促進のため、令和3年7月にコンビニエンスストアで交付手数料を引き下げた。
- ・ 転入・転入等が増える年度末や年度始めに夜間・休日窓口を開設した。

イ 生活支援に関する相談・支援体制の強化

- ・ 複機多機化する市民の相談や消費者トラブルに対して、総合相談員4名や消費生活者相談員2名を配置し、指導助言を行った。
- ・ 地域の団体や教育施設での出前講座による消費者教育活動を実施した。
- ・ 外国人窓口相談支援員1名を配置し、住所異動や国民健康保険などの手続きを支援したほか、総務課等が実施する電話での通訳サービスを外国人の各種手続きに活用した。

マイナンバーカードの交付率

現状値 (2022年8月)	83年度値 (2022年3月)	成果指標 (2028年度)
8.2%	39.3%	20.0%
		達成：A

地域の福祉や医療の充実を図り、市民一人ひとりが生涯を通じて安心して健やかに暮らすことができる社会を形成します

(1) 子どもを産み育てやすい環境の充実

妊産婦から子育て期においては、子育て世代包括支援センターを核とし、切れ目のない支援を実施。経済的負担の軽減、保育の充実、放課後の児童の居場所の確保を図った。

安心して妊娠・出産・子育てができるきまぐれやかな支援

- 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、相談支援、あそび場の提供等、安心して子育てのできる環境づくりを推進したほか、専門保育士による乳幼児期の発達相談や助言指導を行った。
- 要保護児童対策として児童家庭相談記録システムを導入し、要保護家庭等への支援強化を行った。
- 特定不妊治療を受ける夫婦に対し、費用の一部を県事業に上乘せして助成した。

現状値	R3実績値	成果指標
38.3% (2015年度)	—	50.9% (2024年度)
進捗：—	進捗：—	進捗：—

本市の「子育てのしやすさ」の評価で「しやすい」又は「ややしやすい」と回答した保護者の割合

(2) こころと体の健康づくりの推進

生活習慣病の予防のため、栄養・食生活、運動、禁煙、受動喫煙防止対策についての各種取り組みを行うことで、発症又は重症化予防を図り、健康寿命の延伸に取り組んできた。  
また、自殺予防対策として地域におけるネットワークの強化・自殺対策を考える人材の育成等を行った。

ア 生活習慣病やがんの予防推進

- がん検診の普及啓発として、商工会連防、労働基準協会等職域へのチラシ配布のほか、定住自立圏形成協定事業として、大町庄南を会場に受診券グッズの配布、パネル展示、健康相談等のキャンペーンを実施した。
- 平日仕事で受診できない方のため土曜日・日曜日がん検診等の実施や、未受診者へ個別通知による受診勧奨を行った。
- がん予防重点地区を設定し、がん予防に関する健康教育事業を実施した。

現状値	R3実績値	成果指標
①がん32.7% ②乳がん38.9% ③肺がん11.1% ④胃がん23.7% ⑤子宮がん29.16% (2017年度)	① 29.7% ② 37.9% ③ 39.4% ④ 20.4% ⑤ 30.4% (2022年度)	① 35.6% ② 41.2% ③ 43.9% ④ 24.7% ⑤ 35.0% (2028年度)
進捗：C	進捗：C	進捗：C

イ こころの健康づくりと自殺予防

- 自殺予防のための相談先の周知、こころのサポーター養成、こころの健康づくりに対する意識と理解を高めるための普及啓発を行った。
- 看護師、精神保健福祉士を配置したこころの健康相談や若者ひきこもり相談を開発し、ハイリスクス等に対して個別ケアを実施した。

現状値	R3実績値	成果指標
16.4 (2017年)	20.5 (2022年)	15.0以下 (2028年)
進捗：C	進捗：C	進捗：C

自殺死亡率

ウ 認知症予防や発達障害、ベンチャー企業などと連携した市民の健康づくりの推進

- 慶應義塾大学と狂内病院、鶴岡地区医師会との共同で、メタボローム解析技術を活用し、市民1万人の生活習慣や健康状態の変化を調査する「鶴岡からい健康調査」(25年にわたるコホート調査)を継続して実施している。

(3) 安心して暮らし続けられる地域福祉の推進

新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の「つながる」取組みが中止あるいは延期となるなど、地域福祉活動に多大な影響が生じた。  
コミュニティ・ユニオン・ソーシャルワーカー等による複合的な課題を抱えた人や家族へのアプローチ、課題の早期発見・早期対応に努める。

ア 住民の参画と協働による誰もが支える誇りある地域福祉社会の実現

- 身近な地域単位での包括的な支援の仕組みづくりの構築に向けた準備を開始した。
- 各町内会や自治会に説明を行い、平常時での声掛けや見守り活動につながる運動系活動支援者個別連絡計画の作成を推進した。

現状値	R3実績値	成果指標
46人 (2017年度)	45人 (2022年度)	50人 (2028年度)
進捗：C	進捗：C	進捗：C

自立相談支援事業の対象である生活困窮者のうち、支援により就労につながった人数(年間)

イ 生涯にわたる自立と学習の促進

- 生涯学習者が抱える多様な複合的な課題の解決、自立に向けて伴走支援を行った。
- 貧困の連鎖を防止するため、子どもの学習支援を実施するとともに、子どもの居場所づくりとして子ども食堂を実施した。

地域の福祉や医療の充実を図り、市民一人ひとりが生涯を通じて安心して健やかに暮らすことができる社会を形成します

(4) 障害者が自立して暮らせる地域共生社会の実現

岡崎市障害者自立支援協議会の4部会(相談支援・ことも・発達障害・しごと)を毎月開催し、障害福祉事業所や関係団体との情報共有を図った。障害理解の推進を図り社会参加を促進するための取組として、一般就労に向けた企業への理解促進に努める。

ア 地域生活を支える環境の整備

- 令和2年に「岡崎市障害者を理由とする差別の解消の推進に関する条例」を制定した。
- 障害福祉サービス事業所のネットワークを基盤とした障害者やその家族の地域生活を支える機能・体制を整備した。
- 医療的ケア児支援情報交換会を実施した。

イ しごとと社会参加を支援する体制の充実

- 企業に対し「障害者雇用に関するアンケート」を実施し、一般就労に向けた企業の理解促進を図った。
- 市役所ロビー等で障害者事業所の合同バザー「まてみて市」を開催し、障害者の活動を周知した。

ウ 高齢のある人ややさしい地域社会の実現

- 障害者の養育の場の提供と芸術活動の市民理解を促進するため障害者アート展を開催、YouTube配信も行った。
- バリアフリーマップ作成体験を実施し、障害者と高校生が一緒に街歩きを行い、バリアフリー点検を実施した。

(5) 高齢者が健康で生き生きとした地域の実現

介護予防と高齢者の社会参加活動の推進、地域支えあい活動、要介護認定者の重症化防止等の取組により、要介護認定率等の低下につながっている。2025年には、団塊の世代が75歳以上となり、医療や介護の需要が高い後期高齢者の割合が増加するため、就労活動や趣味、生涯学習など介護予防に資する地域活動への参加意欲を促す取組も必要となる。

ア 介護予防の促進と社会参加の促進

- 住民主体の介護予防通いの場の立ち上げ、活動の継続を支援した。
- 住民同士の支え合いによる地域づくりのための「担い手養成研修」を開催した。

イ 地域生活を支える体制の充実

- 生活支援コーディネーターが、通いの場や買い物支援の立ち上げ支援など、地域での支え合いの体制構築を推進した。
- 家族介護者のほか介護に関心のある方々を対象に「家族介護者交流のつどい」を開催し、介護者同士の交流・介護相談に加え、介護技法等学びの機会を提供した。

ウ 認知症対応の総合的な推進

- 認知症を正しく理解し、対応を学ぶ機会として、認知症サポーター養成講座を小中学校、地域、企業で開催した。
- 認知症の人やその家族等が、一緒に学び交流する場「認知症カフェ」を開催した。

エ 介護制度の運用と改善

- 介護保険適正化推進員の配置により、要介護認定やケアプランに係る研修・点検等を実施し、適正給付や過不足のないサービス提供に努めた。
- 市民や団体向けに介護保険制度の事前講座やミニ研修会を開催し、制度理解を推進した。
- 市内高校等での介護職員初任者研修への講師派遣やリターン就職説明会の開催等により、介護人材確保を支援した。

(6) 医療提供体制の充実

市内病院では、新型コロナウイルス感染症対策と通常診療の両立に努め、コロナ禍においても市民が安心して暮らせる医療提供体制の維持を図ってきた。医師・看護師等の不足や新型コロナウイルス感染症への対応など課題も多いが、引き続き地域医療体制の充実に向けた取組を推進する。

ア 心臓病・回復期・重症期まで切れ目のない医療の提供

- 5疾患で地域連携バスを運用し、市内病院での治療後も地域のかかりつけ医と連携し、安心して医療を受けられる体制を確保した。
- 地域医療連携が円滑に進むように、医師関係者による「市内病院地域医療連携推進会議」を開催するとともに、地域医療機関と市内病院活動医による合同懇談会を開催した。

イ 在宅医療の推進

- 地域の医療・介護関係者の連携を促進するために、多職種でのグループワーク等の協働・連携に関する研修を開催した。
- 新型コロナウイルス感染症の流行により、市内病院で一部患者を対象に在宅診療を実施するとともに、タブレット端末を介したオンライン診療も実施した。

ウ 救急医療・災害医療体制の整備

- 救急搬送を受け入れた私的二次医療機関に対して助成を行う制度を創設。救急医療体制の確保、充実を図った。

エ 市内病院と医師会連携の推進

- 市内看護専門学校の新設事業に着手し、令和2年度に新看護専門学校の基本構想を策定した。1学年の定員を現定員の20人から30人に拡大するなど、医療従事者の確保に努めている。
- 市内看護専門学校の新設事業と地域サービス向上の両立
- 毎月、経営対策会議を開催し、収支状況の分析や改善策等の検討を行い、令和2年度及び3年度決算において経常収支の黒字を達成した。
- 医師(健科医師除く)を増員(H314:68人→R44:73人)し、診療体制を充実させたほか、デジタルを活用し、患者サービス向上につながる「科室横断的ITシステム」の導入など、待ち時間の改善等に取り組んでいる。

現状値	R3実績値	成果指標
84% (2017年度)	91.2% (2021年度)	94% (2023年度)
注：B		

市内病院における患者サービスの満足度指数

# 施策の大綱3

# 学びと交流

歴史と伝統に育まれた優れた文化のもと、ふるさと鶴岡を愛する、いのち輝く人を育て、歴史や文化でつながる交流を拡げます

## (1) 次世代を担う人づくりの推進

GIGAスクール構想によるタブレット端末や校務支援システムを導入するなど教育環境の整備や「ふるさと鶴岡を学ぶ学習」等の実施やキャリア教育の実施を図った。生命科学分野の人材育成等を図るため、高校生バイオサミットの実施や市内高等教育機関が連携した「知の拠点庄内シンポジウム」の開催等、人材育成の取組が進められている。

### ア たくましく、美しく、豊かさを誇る子供の育成

- ・ 現行の学習指導要領の達成に向け、教育研修の実施やタブレット、校内LAN等の活用環境の整備によるICTの活用を推進した。
- ・ 道徳教育の推進、地域人材と連携した登下校時の安全確保に取り組んだ。

### イ さまざまな教育資源の活用

- ・ 取送博物館や加茂水巻館等を活用したふるさと鶴岡を知る学習を進めた。
- ・ 山形大学学校教育大学院と連携して、教育研修等を充実させたことによる特別支援教育の充実を図った。
- ・ 学校教育支援員や外国語ボランティア等の配置による人的支援を行った。

### ウ 地域と協働する「チーム学校」の推進

- ・ コミュニティセンター等の協働の体制を強化し、地域と連携して学校運営に取り組み体制をつくり上げた。
- ・ 児童生徒の心の健康の維持や不登校等に対応するためにスクールカウンセラー、家庭に困難を抱える児童の支援が必要な児童生徒のためにスクールソーシャルワーカーを雇用した。

### エ 正規教育機関の活用

- ・ 鶴岡第三中学校の改築や朝陽第五小学校の改築等、計画的な修繕や大規模改修を行った。
- ・ 遠隔通学地域におけるスクールバス運行や通学費用助成を実施した。

### オ 教育者の研修を充実させた教育研究活動の充実と地域連携の推進

- ・ 鶴岡バイオクラスター形成プロジェクト事業として、業界シーズの探索や産官学共同研究交流推進事業を実施した。
- ・ 市内7つの高等教育機関が連携して取り組む「知の拠点庄内シンポジウム」を支援した。
- ・ 鶴岡南高と鶴岡北高を統合し、中高一貫校(改組)の開設に向け取り組んでいる。(令和6年4月開校予定)

### カ 若者の地元回帰促進、地域課題の解決

- ・ 若者の地元回帰促進のため、つるおかエール奨学金返済支援制度の創設や医学部への修学資金貸与を実施した。
- ・ 地元愛着と多様な職業観の醸成、地元就職の早期意識づけを目的とするキャリア教育の実践を支援したため、教員対象の研修や実践協力校での出前授業等を実施した。

### 全国学習状況調査における割合

現状値	78%	(2017年度)
目標値	79.6%	(2021年度)
達成率	84%	(2024年度)
進捗	進捗：B	

他者との協働や共生について考えていることも

現状値	43%	(2017年度)
目標値	96.3%	(2021年度)
達成率	57%	(2024年度)
進捗	進捗：B	

※達成率は「友達と協力すること出来る」という項目の割合

学んだことを日常に生かそうとすると子ども

現状値	32%	(2017年度)
目標値	61.8%	(2021年度)
達成率	57%	(2024年度)
進捗	進捗：B	

※達成率は「異校で学習したことや日本各地に活用できないが考え」という項目の割合

高等教育機関等から誕生したベンチャー企業の4.0進捗率の従業員数

現状値	162人	(2018年度)
目標値	196人	(2021年度)
達成率	270人	(2024年度)
進捗	進捗：B	

## (2) 地域における人づくりの推進

市民一人ひとりが自分の住む地域を知り、課題を共有し解決に向けた取組が図られるよう、学びの機会の提供や活動拠点となる施設の機能充実を図った。図書館では読書活動を奨励し、読書環境の整備、資料の収集と保存、情報の提供に取り組んだ。さらに、男女が互いに理解し、助け合い、個性と能力を発揮できるよう家庭や学校、社会教育、生涯学習を通じて誰もが性別や国籍などに関わらず、多様な生き方を実現できる社会を目指す。

### ア 市民の夢や希望を叶えるための取組

- ・ 中央公民館、コミュニティセンターなどでの各種生涯学習事業を実施した。
- ・ 生涯学習事業の企画・運営を図る生涯学習推進員を各小学校単位で設置し、住民の地域社会づくりに参加を促した。

### イ 社会教育活動推進のための環境整備

- ・ 中央公民館の空調整備、大島自然の家の玄関スロープ整備等、社会教育施設の計画的な改修を行った。
- ・ コミュニティセンター等へ公衆無線LAN機器の設置し、住民のオンライン学習環境を整備した。

### ウ 子育て支援の充実

- ・ 家庭教育支援講座、地域子育て講座などの家庭教育支援事業を実施し、家庭教育の向上を図った。
- ・ 親子のふれあいや本の読み聞かせの大切さを伝えるブックスタート事業を実施した。

### エ 自然環境の活用

- ・ 自然学習交流館「ほとけ」ほか、市内各所の自然環境学習、自然体験が可能な施設と連携して、子どもたちが豊かな自然の中で学び、活動することができる機会を創出した。

### オ 市民の生活の向上

- ・ 子どもや子どもに関わる大人を対象とした子どもの読書推進のための講座や市出身絵本作家とのワークショップ等を実施した。
- ・ 図書館本館や分館のあり方を含めた将来構想を検討した。

### カ 男女共同参画と互いに輝き合う社会づくりの推進

- ・ 第2次男女共同参画計画の概要リーフレットと計画書を作成し、市内公共施設等を通じて周知を図った。
- ・ 令和3年度にジェンダーをテーマにした子どもの読書推進のための「つるおか」協会を設立し、誰もが輝く社会の実現への意識啓発を図った。
- ・ 市役所をモデル事業所として、女性職員の管理職登用や市審議会等委員の女性比率の向上、イクボス宣言やイクボス研修を実施した。

生涯学習講座に参加した市民の満足度

現状値	84.5%	(2017年度)
目標値	90.5%	(2021年度)
達成率	90.0%	(2024年度)
進捗	進捗：A	

家庭教育支援講座を実施した施設割合

現状値	46.9%	(2017年度)
目標値	74.5%	(2021年度)
達成率	70.0%	(2024年度)
進捗	進捗：C	

市立図書館における子ども(15歳以下)1人あたりの年間児童図書書の貸出冊数

現状値	9.5冊	(2017年度)
目標値	11.7冊	(2021年度)
達成率	14.0冊	(2024年度)
進捗	進捗：B	

市内の山形いさぎ子育て応援企業数(登録企業・実践企業数)

現状値	29社	(2018年度)
目標値	35社	(2021年度)
達成率	85%	(2024年度)
進捗	進捗：-	



歴史と伝統に育まれた優れた文化のもと、ふるさと鶴岡を愛する、いのち輝く人を育て、歴史や文化でつながる交流を拡げます

(3) 文化芸術の振興

多形で、優れた文化活動のさらなる発展のため、市民が文化芸術活動を行う場と優れた文化芸術に触れる機会を提供し、市民主体の芸術活動を推進した。一方、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント等の中止がみられる中、団体の構成員の高齢化や担い手不足も懸念しており、子ども達の文化芸術活動を支援する体制づくりが求められる。

ア 市民の芸術活動の振興策

- 文化会館、アートフォーラムの指定管理者制度の導入により機能の充実を図った。
- 芸術文化団体への財政支援による活動の活性化を図った。
- 経営事業と連携した商業家によるワークショップや子どもの作品展等を実施した。

文化芸術活動の参加者数

現状値	107,810人 (2017年度)	R3実績値	90,177人 (2021年度)	成果指標	195,980人 (2028年度)
			差歩：C		

(4) 文化資源の保存・継承・活用

郷土資料館、松ヶ岡開港場、大宝館、藤沢周平記念館などの本市の文化施設の機能を十分に発揮させることにより、地域特有の歴史や文化、風土に根ざし受け継がれてきた文化財を適切に保存継承し、文化財を核にした地域活性化や観光振興を図る。

ア 歴史・文化と文化財の保存・継承・活用

- 民俗芸能継承会を創設し、発表の場の提供と市民への周知を図った。
- 羽黒山五重塔など民間所有の指定文化財の保存修繕への財政的支援を行った。
- 民俗芸能の伝承や後継者育成に関する取組への財政支援や有形文化財のデジタルアーカイブ化などによる後世への継承を進めた。

文化財施設入館者数

現状値	916,000人 (2017年度)	R3実績値	680,464人 (2021年度)	成果指標	1,026,000人 (2028年度)
			差歩：C		

イ 郷土資料館などの歴史資料の保存と活用

- 史料調査や受入れにあたっては、致遠博物館と連携を図りながら、郷土資料の適切な保存に努めた。
- 企画展や歴史講演会などを開催し、市民の郷土史への関心の涵養に努めた。
- 利用頻度の高い地元新聞や個人所有も含めた古文書資料のデジタル化を進めている。

ウ 歴史・伝統・文化を大切にした誇りの持てるまちづくりの推進

- 酒井家庄内入部400年を契機に、歴史講座や子ども記者プロジェクト等、庄内の歴史と文化を学び、郷土への愛着と誇りの醸成に向けた取組を実施した。
- 松ヶ岡開港記念150年を記念した企画展示やイベントの実施、「シルク未来館」の整備等、各教室や周辺環境の整備を行った。

エ 文学資料の調査研究と活用

- 大宝館では、高山樗牛など本市にゆかりのある文学関係者の愛用品などを展示して紹介した。
- 藤沢周平記念館では関係資料の展示公開しているほか、講演会や閉館会を実施し、藤沢周平の人となりや作品世界について知る機会を創出している。

(5) 市民スポーツの振興

市民の誰もがスポーツに親しむ環境を整え、特に幼児期から青少年期に運動に親しむことで生涯にわたる健康や体力の基礎づくりの推進や競技力の向上に取り組んだ。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催にあたっては、ホストタウンとして出場国との交流を図った。今後、中学校部活動の地域移行をはじめ、地域による自主的かつ自立したスポーツ環境の形成が求められる。

ア 市民の健康・生涯スポーツの場の形成

- 自然や文化を活用した「てくてく健康登山あるき」等、ウォーキング専業を実施し、健康づくりを促進した。
- 総合型地域スポーツクラブの自主・自立運営に向け、クラブ相互の情報交換やクラブマネージャー育成の取組などを支援した。
- スポーツ少年団の活動支援を通して、子どものスポーツ機会や活動の充実に努め、健康づくりを図った。

「運動・スポーツに関するアンケート調査」における割合

成人週1日以上の運動実施率

現状値	53.7% (2019年度)	R3実績値	55.4% (2021年度)	成果指標	65.0% (2028年度)
			差歩：B		

成人週3日以上の運動実施率

現状値	21.9% (2019年度)	R3実績値	34.3% (2021年度)	成果指標	30.0% (2028年度)
			差歩：A		

イ 地域の誇りにつながる競技スポーツの振興

- 中高体育連盟や総合型地域スポーツクラブ等と連携し、ジュニア間における一貫した指導体制の充実を図った。
- スポーツ協会や各種競技団体が行う競技力向上や指導者養成に関する取組を支援した。
- トップレベルの競技を身近で観戦する機会の提供のため、国際パドミントンU16をはじめ、国際・全国大会を誘致した。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を通じた、モデルバヤドイットのホストタウンによる競技交流や文化交流を行った。

ウ 充実したスポーツ環境の推進と創出

- 令和19年12月、大江山工業団地に競技力向上と健康づくりに寄与する拠点として、屋内多目的運動施設「JA鶴岡だだちやアリーナ」を整備した。
- 効果的な管理運営と施設利用者へのサービスの向上のため、指定管理者制度を導入した。
- 地域のスポーツ推進のため、円滑な利用調整による学校体育施設の開放を行った。

エ 子どもも笑顔に輝くスポーツ環境の充実

- 子ども達に運動の楽しさを実感してもらい、運動の日常化を図るため、「子ども夢スポーツフェスティバル」を開催した。
- 幼児期からの発達過程を踏まえた身体活動の促進のため、楽しみながら体を動かす機会を提供した。
- 令和5年度からの中学校部活動の地域移行に向けて検討している。

歴史と伝統に育まれた優れた文化のもと、ふるさと鶴岡を愛する、いのち輝く人を育て、歴史や文化でつながる交流を拡げます

(16) 学校給食の充実

心身ともに健やかな子どもを育てるため、栄養のバランスのとれた安全なおいしい給食を提供してきました。また、食育の形成と地産地消の推進、学校給食業務の地、食文化創造都市にふさわしい食育等に取組んでいます。今後、老朽化した施設や将来の需要を見込んだ新たな給食センターの整備や既存施設のあり方などを検討していく必要があります。

ア 食育の推進と食文化の継承と安全安心な給食の提供

- 児童生徒の意見を取り入れた献立の作成、地域の食材を使用した伝統的な郷土料理や行書食を提供した。
- 農協や生産者団体との協定による納入の拡大や、県と連携した地産地消ウィークの設定により、「食育」と「地産地消」を一体的に推進している。

イ 健康増進・食生活の改善

- 新センターの建設や現在5つある施設の今後あり方をまとめた基本構想骨子を作成した。
- 設備更新を行いつつながら既存施設の適切な維持管理をすることにも、安全衛生管理の徹底を図った。

ウ 連携を通じた子供の食育の推進

- 栄養教諭が小中学校を訪問し栄養バランスや食べ残しなどをテーマとした食育指導を実施した。
- 「給食だより」で鶴岡の食文化等の紹介や、HPでレシピを紹介した。
- 第3子以降の給食無償化を実施した。(平成30年度～)

(17) 都市交流の推進

国内の友好都市等との交流事業は、新型コロナウイルス感染症により事業実施に大幅な制限がかかったものの、開催方法やあり方を工夫し調整してきた。コロナ収束を見据え、行政のみならず、民間も巻き込みながら交流を行っていく必要がある。また、ふるさと会については、人的ネットワークを通じ、本市への観光誘致や企業誘致等につながるよう今後も連携を図っていく。

ア 都市間交流の推進

- 姉妹都市等の協約を締結した各市町村との相互理解の進展と交流を促進するため、各団体との交流事業を新型コロナウイルス感染症対策に配慮し実施した。令和3年度は、江戸川区、名古屋市の盟約記念事業を実施した。
- 東京事務所を中心に「第二のふるさと」づくりとなる事業として、本市の森林資源を活用する新たな事業展開を図るため、交流都市との協賛を推進した。

イ ふるさと会の推進

- 「ふるさと会」へ本市ふるさと納税や商工団体・県と連携した特産品の案内やイベントの周知を行い、本市への新たな支援の呼び起しや、会の活性化を図った。

(18) 国際化の推進

ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催などを契機に、国際交流の一層の拡大を図るとともに、特に子どもや若者の国際交流を推進している。また、出羽庄内国際村を中心に外国人との互いの文化を認め合う共生のまちづくりに取り組んでいるが、「仮称鶴岡市多文化共生推進プラン」について策定を進める必要がある。

ア 多文化共生のまちづくりの推進と国際化の推進

- 出羽庄内国際村でのワールドバザールや国際音楽祭の開催、日本語教室、生活相談などの活動に対して支援した。
- 国の多文化共生の指針及び県の第2次国際化戦略と、外国人関係団体や国際村利用団体へのヒアリングなどを参考に、多文化共生推進に向けたプランの策定づくりに着手した。

イ 国際交流の推進

- NB市とのコロナ禍における交流として実施した、「交換メッセージング」動画の政策と配信」などが評価され、総理大臣表彰を受賞した。
- NB市との中学生訪問団の相互派遣やラフィア市への中学生訪問団の派遣、ニューカレドニア資料の中学校への展示を実施した。
- イタリア食料科学大学との連携事業や料理人研修・派遣事業の取組により食の専門家との交流の展開を図った。

外国語講座及び日本語講座受講者数

現年度	前年度	成長指標
1,538人 (2022年度)	937人 (2021年度)	1,166人 (2020年度)
		進捗：C

学校給食に対する満足度

現状値	目標値	成長指標
小学生75.3% 中学生55.3% (2023～2024年度)	小学生97% 中学生95% (2021年度)	小学生80.7% 中学生82% (2020年度)
		進捗：A

給食を残さず食べきる児童生徒の割合

現状値	目標値	成長指標
小学生77.5% 中学生61.8% (2023～2024年度)	小学生85% 中学生89% (2021年度)	小学生80.0% 中学生85.5% (2020年度)
		進捗：A

行政及び民間における相互交流案件数

現状値	目標値	成長指標
18件 (2022年度)	8件 (2021年度)	25件 (2020年度)
		進捗：C

人が集い新しいことにチャレンジできる、魅力ある農山漁村を形成し、豊かな食文化を支える農林水産業の生産拡大と所得向上を実現します

(1) 農業を支える人材の育成・確保

SEADS(福岡市立農業経営者育成学校の開校、農業研修や就職時の初期投資費用の助成、雇用就農の促進等)により、新規就農者は増加傾向にある。  
また、農業アルバイトマッチングアプリを通じて、異業種従事者の副業等による新たな労働力の確保が行われている。

**了 追い手の育成・確保**

- 関係機関との連携による相談体制を整備し、新規就農者及び就職希望者に対するサポートを強化した。
- 就業前の研修を支援するため、国の事業により研修資金を助成するとともに、福岡市新規就農者研修受入協議会との連携を強化し、農業研修を受けやすい環境整備を推進した。
- 就業開始後の経営安定化に向けて、国の事業により経営資金を助成するとともに、国・県の新規就農支援策の活用を促進し、機械・施設の導入など初期投資の負担軽減を図った。
- 市の支援策により国・県の支援対象とならない小規模な機械・施設等の導入を支援した。
- 産学官の連携によりSEADSを開校し、農業技術や経営知識などについて、座学や実習を通じて学びの機会を就職希望者に提供した。
- 就業に向けた生活支援を実施することで、稼げる農業を実現する農業経営者の育成を図った。

新規就農者数 うち新規参入者数		成果指標	
現状値	R3実績値	R3実績値	成果指標
累計人数1226人 (年平均35人) (2013～2022年度)	累計人数244人 (年平均53人) (2021年度)	累計人数450人 (年平均45人) (2019～2023年度)	累計人数200人 (2023年度)
			注：参入者数

**イ 雇用拡大の受け皿となる企業・団体の育成**

- 国・県の補助基金を活用し、農業用機械・施設の導入を支援することで、規模拡大や経営部門の多角化を推進した。
- 農業法人等への雇用拡大を促進するため、農業法人等に対し、国の雇用促進資金の活用について情報提供を行った。
- 人・農地プランにおける地域の合意形成に基づき、農業委員会と連携し、中心経営体への農地集積・集約を推進した。

**ウ 生産に必要なたまかな労働力の確保**

- 農業アルバイトマッチングアプリ「daywork」の周知及び研修会等を実施し、農業従事者の副業など従来の農業従事者とは異なる労働力の掘り起こしを行った。
- 子育て女性向け農業アルバイト見学会を実施し、地域の潜在的な労働力の掘り起こしを図った。
- 農産物産出で農業従事者等からの問合せなどに対して、マッチングを行っている山形県産産物推進センターの紹介などを行った。

(2) 地域経済を支える農業生産の拡大

主食用米について、需要見通しを踏まえ、大豆や園芸作物への転換を推進しているものの、コロナ禍による米の消費減退等により米価は下落している。一方、農地の集約化等については着実に進んでいる。また、園芸作物については、団地化により産地形成が進み収量が増加した品目もあるものの、高齢化等による経営体数や作付面積の減少が続いている。  
有機栽培については、栽培技術の課題等から有機米の作付面積は横ばいとなっているが、民間事業者やJA等が連携したブランド「SHONAI ROOTS」は販売が拡大している。

**ア 生産拡大の促進の取組**

- 米価安定に向けJ Aなどと連携し、米の需給調整を行うため、主食用米から非主食用米や高収益作物などへの転換を推進した。
- 生産コスト削減のため、実証圃の設置やAI/IOTを活用した省力化生産の実証などの取組を支援した。
- 県営の水田農業産出コスト・高付加価値化基盤整備事業による農地の整備整備を推進した。
- 米生産における農作業の省力化や労働力不足解消のため、J A等が実施する生産性の高いスマート農業技術実証(自動給水装置、生育診断等)の取組を支援した。

**イ 生産拡大に向けた「産地」の生産拡大**

- きゅうりやミニトマト等の園芸圃地化によるパイプハウス整備と農業用機械の導入により、生産拡大や省力化が進み、園芸作物の産地形成を推進した。
- 果樹では、優良品種への転換や施設整備等への支援により、農産物産出額の増加に寄与した。
- きゅうりの生産においては、大規模園芸圃地の造成や、自動換気システム、養液土耕栽培システムなどのICT技術の活用を推進した。

農業産出額  
うち園芸作物(野菜・果物・花き)

現状値	R3実績値	成果指標
307億 140億 (2015年度)	307.4億 134.9億 (2022年度)	400億 200億 (2023年度)
		注：参入者数

有機米の作付面積

現状値	R3実績値	成果指標
62ha (2017年度)	63.2ha (2022年度)	100ha (2023年度)
		注：参入者数

**ウ 生産拡大の取組**

- 産地センターの健全運営に向け、販路拡大や有機センターでは、国の補助基金を活用し、施設整備などの取組を行うとともに、別荘地等での施設整備促進では、モニタリング調査の実施や輸入産品の水分量調査を実施した。
- GAP(農業生産工程管理)の取組を周知するとともに、取得が容易な県版GAPの取得を推進した。
- 生産拡大のため、有機農業公開圃地において「えたま有機栽培の手引き」による栽培技術の普及を推進した。
- 庄内スマート・テロワール構築協議会へ参加し、地域内で資源と経済が循環するモデルの構築に向けた活動を推進した。
- 有機・特別栽培産物のブランド「SHONAI ROOTS」の知名度向上のため、ブランドのPRや販路の拡大を支援した。
- 市有牛舎付制度からJA全農預託牛等の民間制度への利子補助制度への切り替えと利用額の削減の徹底を行った。

**エ 生産拡大の取組**

- 高齢者対策強化のため、侵入防止に向けた電子センサーの設置、集落に寄り添ったための環境整備、補償を総合的に推進した。
- 中山間地域での農業生産活動を、中山間地域等直接支払、多面的機能支払交付金により支援した。
- 農用地利用等調整委員会と連携し、農地の利用状況を把握するとともに、守るべきエリア内に発生した遊休農地については、耕作者の意向を確認しながら指導を徹底した。

人が集い新しいことにチャレンジできる、魅力ある農山漁村を形成し、豊かな食文化を支える農林水産業の生産拡大と所得向上を実現します

(3) 農産物の付加価値向上と販路拡大

品質の向上やイベント、インターネット等を通じたPR、情報発信などによりブランド力の強化と販路拡大に取り組み、特に特産品に大きく貢献している。  
また、産直施設では、少量多品目の農産物や6次産業化による農産物加工品が販売されるなど、地産地消の推進にあたって重要な役割を担っている。

ア 農産物のブランド力の強化と所得拡大

- ・商談参加やインターネット販売に取り組み農業者等に対する市の支援策により農産物等の販路拡大を推進した。
- ・園芸団地の形成や生産・流通技術の導入などにより、安定した品質・数量の供給体制が構築され、市場等の実需者の信頼獲得に繋がりが、産地としてのブランド力が向上に寄与した。
- ・消費拡大イベントやインターネット等を通じた域内外へのPRにより消費者等の認知度が向上し、産地のブランド力の向上に寄与した。

産直施設の販売額		成果指標	
現状値 (2015年度)	11.4億円	13.6億円 (2021年度)	15.0億円 (2028年度)
		進捗：B	

イ 6次産業化、農産二級産物の推進と所得拡大

- ・国・県・市の補助事業により農産物加工やグリーンツーリズムなどの6次産業化の取組みを支援し、農産物の付加価値向上及び農業者経営の多角化に寄与した。
- ・農商工連携推進センターを配置し、6次産業化や農商工連携に係る相談対応から補助事業の実施までを支援した。
- ・学校給食で農産物産物の使用を推進するため、生産者団体と給食センターによる協定の締結を支援し、また、協定内容の見直しや相互理解の深化に向けた意見交換を実施し、地産地消を推進した。
- ・「つるおか大産物まつり」や「輪廻新そばまつり」等の開催により、農産物・加工品等の地産地消を推進した。

(4) 効率的な木材生産と健全で豊かな森林づくり

木材生産の効率化につながる基盤整備を行うとともに、森林境界の明確化のために県との共同による航空レーザー測量や木材生産の収益性を基準とした森林のゾーニングを実施している。  
また、公共施設整備や住宅建築における地域産木材の活用や木質バイオマスの利用を促進している。  
そのほか、子ども達への森林学習や市民の森林整備作業体験の実施、企業と協定を締結し、地域と連携した環境保全活動を実施している。

ア 木材生産の効率化の推進

- ・林業事業者の高性能林業機械の導入支援や森林環境整備と粉を活用した森林整備の促進と林道の改良・維持管理を行った。
- ・林道の災害予防のための測深維持管理等を実施し、木材生産の効率化につなげる取組を推進した。
- ・森林整備の支障となつている境界不明瞭区域の解消に向けた、県との共同によるレーザー測量を実施した。
- ・民有林人工林を「経営に滞りない森林」と「今後判断が必要な森林」に区分し、意向調査に活用した。
- ・新たな森林管理システムの実施に向け、経営管理が適切に行われていない森林所有者へ調査を実施した。
- ・職員のスキルアップのため、林業事業者の職員の研修等に活用できる担い手育成補助金を創設した。

木材生産量 (民有林)		成果指標	
現状値 (2017年度)	29,934 m <sup>3</sup>	40,859 m <sup>3</sup> (2021年度)	50,000 m <sup>3</sup> (2028年度)
		進捗：B	

イ 木材生産の地域振興の促進

- ・輪廻新3中学校や南部保育園等において、地域産材の調達と建築工事を分ける「木工分業発注方式」により取組した。
- ・地元産木材の利用や地元職人によって製造される「つるおか住宅」を、子育て世帯や移住世帯が新築する場面に補助金を交付した。
- ・三浦コミュニティセンターへの薪ボイラーや改築予定の朝日庁舎へのチップボイラーの導入など、木質バイオマスエネルギーの利用拡大を推進した。
- ・孟宗竹林の環境整備や伐採竹の薪束を林道の横断面溝の資材として設置し、有効性の検証を行った。(薪束の制作は鶴岡高等農産学校へ委託)

ウ 森林整備と健全で豊かな森林づくりの推進

- ・子どもたちを対象に、森林の身近さや多様な自然環境を体験させる森林学習事業を実施した。
- ・企業と地域住民や県、市が「つるおか緑の森」の協定を締結し、企業の森づくり推進事業として、荒廃森林整備や環境保全活動を実施した。
- ・海岸林の薬剤散布や被害木の伐倒駆除などにより松くい虫被害拡大を防止を図った。

人が集い新しいことにチャレンジできる、魅力ある農山漁村を形成し、豊かな食文化を支える農林水産業の生産拡大と所得向上を実現します

(5) 水産物の安定供給と漁村の活性化

漁業者の高齢化や漁業者数減少、海水温の上昇等自然環境の変化によって漁獲量が減少している中、担い手育成や稚魚放流等の取組により漁獲量の減少の緩和に繋がった。また、コロナ禍における角需要が低下する中、ブランド戦略の推進や出荷物の高品質化、飲食店等におけるキャンペーン等により、一般家庭や飲食店等における地魚の消費拡大が魚価の回復に繋がっている。

- ア 担い手の育成・確保と漁業の生産量の向上
  - ・県、漁協、漁業者等との連携による、新規就業者向けの研修の実施や独立及び経営の安定化に向けて支援した。
  - ・漁港の産着命化計画等の策定、漁港泊地における浚渫工事を計画的に実施した。
  - ・漁業団体による種苗放流や藻場保全活動等を支援した。
  - ・市内5つの内水面漁業団体によるサクラマスやアユ等の種苗放流やサケ資源増強、漁場管理等を支援した。

- イ ブランド化と安定供給による産地・産品の向上
  - ・市内ブランド輸出協議会への参加及び、ブランド魚の創出、漁獲量の増加などに向けたキャンペーンや技術講習等を実施した。(ブランド魚：庄内おぼこサワラ、天然とらふぐ、庄内北前ガニ)
  - ・県との協働事業、水産業成長産業化支援事業による、高品質な魚介類の安定供給等に向けた漁業者等の意欲的な取組を支援した。

- ウ 若狭加工などの産地と消費人口の拡大による産地の活性化
  - ・一般家庭への魚介普及に向けた、庄内県文化伝道師(事務局：県)との連携による、就学前児童に魚を見せる「お魚教室」や児童と一緒に魚を調理する「お魚出前教室」を開催した。
  - ・「魚のおいしいまち鶴岡キャンペーン」で料理人と連携し、低利用魚のお試し提供や調理実習を兼ねた研究会の開催等による活用方法を研究した。
  - ・地産水産物の使用率向上に向けて、県漁協による学校給食への食材供給を支援した。
  - ・風ヶ岡、由良の漁業者によるイベントの支援及び、イベントを契機とした交流人口拡大策への助言や由良自治会による釣り場とフィッシングセンターを活用した地域振興策を支援した。

生産額		R3実績値		R2実績値	
現状値	14.0億円 (2015~2017 年度平均)	10.8億円 (2021年度)	17.0億円 (2024年度)		
		差率：C			

魚価		R3実績値		R2実績値	
現状値	493円/kg (2015~2017 年度平均)	476円/kg (2021年度)	590円/kg (2024年度)		
		差率：C			

市民の暮らしを潤す力強い産業を振興し、人材を育てながら、国内外との交流を活活性化させ、多くの人を惹きつける地域をつくりまします

**新型コロナウイルス感染症により大きく影響を受けた業種もある一方、工業用地需要の増加や半導体産業の好調な需要により好業績となった業種もあった。**  
また、国・県・市による事業継続、新分野展開などへの支援策があったことから、働く場が確保されている一方で、業種問わず人出不足が懸念されており労働生産性の向上が課題となっている。

**A 企業の成長の強化**

- 新分野・新事業進出等に対し、国・県・市の補助事業等の活用を促進し、より、新商品開発や設備投資を支援した。
- 地域産業界と高等教育機関の連携促進と、研究教育機能の充実を図るため、産学連携事業等の取組を支援した。

現状値 (2015年度)	R3実績値 (R3年度)	成果指標 (R10年度)
696万円/人	792万円/人	792万円/人
業種：C	業種：C	業種：C

従業者一人あたりの副工業等生産額

**I 企業の雇用の拡大並びに投資促進**

- 用地取得や事業継続等の助成金による支援を行うほか、新規立地に伴う一定規模の雇用創出に対し支援を行い、企業の立地誘致や設備投資の促進を図った。

**ウ 優れた地域振興を生かした産業の振興**

- ユネスコ食文化創造都市である本市の資源を生かした新商品や販路開拓を支援した。
- 韓国ジルクのブランドイメージの向上、海外展開も含めたマーケティング活動、販路拡大へ支援を行った。

**エ 都市の企業活動の支援と地域振興・経済の促進**

- 韓国商工会議所・出現商工会・庄内地域産業振興センターによる経営サポートや創業、人材育成等への支援を行い、経営基盤の強化や人材育成を図った。
- プレミアム付商品券の発行やキャッシュレス決済の導入促進、消費喚起のためのキャンペーンを実施した。

**エ 都市の企業活動の支援と地域振興・経済の促進**

- 中心市街地における空き店舗や未利用地への新規出店や既存店舗の取組に対し、一定の需要はあるものの、空き店舗の減少には至らなかった。  
また、コロナ禍においても各イベントでも各イベントでも一定程度の集客があり、リピーターの獲得や商店街の情報発信や個店の魅力向上に向けた取組が必要となる。

**ウ 中心市街地における多様な店舗・サービス機能の立地促進**

- 創業や開業、事業継承に伴って行う空き店舗等のリフォームに対する支援を行い、商店街の賑わい、魅力向上を図った。
- 創業や事業継承に伴う空き店舗のリフォームや、賑わい創出のための商店街の空き店舗の利活用を支援した。
- 「FOODREVER」において実施するイベントや食文化情報等の発信に対する支援を行い、賑わいつくりや観光客等へのPRを行った。

**I 魅力を高めた観光・観光振興**

- 韓国TMO事業による、商店街等が実施するイベントや情報発信に対する支援を行い、賑わいの創出・活性化を図った。

現状値 (2017年度)	R3実績値 (R3年度)	成果指標 (R10年度)
3,843人	2,878人	4,281人
業種：C	業種：C	業種：C

中心商店街における自転車歩行者数  
(休日・平日の平均)

現状値 (2017年度)	R3実績値 (R3年度)	成果指標 (R10年度)
10.5%	10.9%	4.5%
業種：C	業種：C	業種：C

中心商店街における空き店舗率

**都市の産業を支え発展を担った多くの人々の確保・育成**

地元定着・回帰を促進する取組や新型コロナウイルス感染症の影響による地元志向により、高校卒業後の就職者の市内就職率は増加傾向にある。  
また、新規創業や産業界人材育成のための支援を実施するとともに、企業の理解を深め働きやすい職場環境の整備を促進する取組が必要とされる。

**A 若者の地元志向の促進と就業支援・魅力形成**

- 学生や保護者を対象とした企業見学会や、地元企業との交流機会の提供、情報発信等により地元定着を促進した。
- 若年層の雇用安定化と処遇改善のため、非正規社員の正社員化奨励金制度「正社員化促進事業奨励金」を実施した。
- UIターン就職者に対する情報発信の強化や市内就職活動に対する交通費等の助成、オンライン合同企業説明会を実施した。

現状値 (2015年度)	R3実績値 (R3年度)	成果指標 (R10年度)
45.0%	54.8%	66.7%
業種：B	業種：B	業種：B

新規高等学校卒業業者就職者のうち  
市内就職者の割合

**I 都市の企業活動の支援と地域振興・経済の促進**

- 創業時の経営支援のため、令和3年度より「新規創業促進助成金制度」を創設した。
- ビジネスプランコンテストの実施及び入賞プランの実現化に向けた支援の実施により、創業機運の醸成を図った。

**ウ 働きやすい環境づくり**

- 労働者の環境改善のため、セミナーや研修等の情報提供や、労働者団体等との定期的な協議等、対話の場を設けた。
- 外国人技能実習生の日本語や技能習得研修等の費用に対する支援を行い、安心して働きやすい環境づくりに寄与した。

**エ 都市の企業活動の支援と地域振興・経済の促進**

- 庄内地域産業振興センターが実施する産業界人材育成事業を支援し、地域企業の人材育成やスキルアップに寄与した。
- 各企業が取り組む業態改善活動の高率について発表する機会として「私のかいぜん発表会」を実施し、情報共有や交流を図った。

市民の暮らしを潤す力強い産業を振興し、人材を育てながら、国内外との交流を活性化させ、多くの人を惹きつける地域をつくります

産業振興・研究開発の推進

国立がん研究センター、慶應義塾大学、山形県、鶴岡市の4者協定によるプログラムは2期目に入り、臨床試験が開始するなど今後の取組が期待される。先端研究産業支援センターのレンタルラボの増設などにより、更なるベンチャー企業の誕生や事業拡大が期待される一方、地元企業や市内高等教育機関との連携や交流が求められる。

先端研究産業支援センターの増設・新機材導入

- 国立がん研究センターとの第2期プロジェクトの推進によるがんメタボローム研究や産物生産、国立がん研究センター・東病院と庄内病院との医療連携による地域医療連携システムの構築を推進した。
- 市内高等教育機関をレンタルラボへ集積を図り、研究開発の促進とその成果による事業化を推進した。

イノベーションを促す取り組みの推進

- 一般社団法人鶴岡サイエンスパークによる入居者間の交流の促進やフロンティアインキュベーションへの支援により、研究成果を活用した産業の創出や新たなベンチャー企業の創出と育成、研究開発人材や起業家人材などの育成、流入の促進を図った。
- 次代の生命科学やバイオ関連産業を担う研究者の交流を促進するため、慶應義塾大学が主催する大規模な学会等を支援した。

企業・若手学生連携の促進と育成・人材育成支援

- 地元企業に対し、山形県産業技術振興機構と庄内地域産業振興センターによる産学連携の研究成果を活用した新商品開発や事業化等を支援した。
- 満室となっていた先端研究産業支援センターのレンタルラボを増設し、事業拡大等の需要に対応した。

高等教育機関・研究機関の研究成果などから誕生した本社を鶴岡市に置くベンチャー企業（従業員4名以上）の数(累計)

現状値	R3実績値	成果指標
5社 (2018年度)	5社 (2021年度)	9社 (2028年度)
		進捗：C

上記ベンチャー企業40歳未満の従業員（役員（非常勤を除く）及び正社員）数

現状値	R3実績値	成果指標
162人 (2018年度)	182人 (2021年度)	270人 (2028年度)
		進捗：B

観光振興

新型コロナウイルス感染症の影響により、観光客・外国人旅行者は大きく減少したが、ワーケーションなどコロナ禍における観光ニーズへの対応を図った。今後も「語でつながるいただきます」を柱とした観光活動を展開するとともに、日本遺産、温泉、加茂水俣飯等をい生かし、各種観光地等の周遊を促進させる。また、新型コロナウイルス感染症の終息を見越したインバウンド誘客に取り組む。

観光振興、マーケティングなどに基づく観光振興

- 令和元年7月に設立したDEGAM鶴岡ツーリズムビューローの運営や取組への支援を介した観光戦略の推進を図った。
- ICを活用した観光動向調査により、コロナ禍における観光ニーズを把握し、教育旅行の誘致に取り組んだ。

イノベーションにつながる観光振興

- SNSやインフルエンサーを活用して情報発信の強化に取り組んだ。
- 温泉地帯を中心に国の高付加価値事業等を活用し、富裕層向けの客室整備や焼酎の食の価値を生かした料理の創出などを促進した。
- ワーケーションやリモートワークに対応した環境整備を支援した。

観光振興、マーケティングなどに基づく観光振興

- 3つの日本遺産をパッケージ化した戦略的な情報発信による観光誘客と周遊の促進に取り組んだ。
- 酒井彌生内入部400年記念事業に関連した取組により、市街地観光の周遊を促した。
- コロナ禍においても日本遺産につながるシャトルバスの運行や観光案内係を維持・継続するなど、観光客へのサービス提供の維持に取り組んだ。

観光振興や情報発信の強化や「クラゲ学習会」を開催した。

- SNSを利用した水族館の情報発信の強化や「クラゲ学習会」を開催した。
- 加茂水族館について、令和7年度のリニューアルオープンに向けて整備している
- 市内の博物館等施設が連携し、共通券やクーポン券による観光客の周遊を促進した。

インバウンド誘客の促進をめざしたインバウンド誘客と環境整備

- インバウンド向けのHPやSNSによる情報発信や旅行商品造成のための商談会に参加した。
- WiFi整備や多言語化の案内板の設置によるインバウンドに対応するための環境を整備した。

観光客入込数

現状値	R3実績値	成果指標
631万人 (2019年度)	383万人 (2021年度)	790万人 (2028年度)
		進捗：C

外国人延べ宿泊者数

現状値	R3実績値	成果指標
19,000人 (2019年度)	1,075人 (2021年度)	60,000人 (2028年度)
		進捗：C

自然と都市が調和したコンパクトシティの形成を進め、交通や情報ネットワークの充実により、市域内外の交流を促進しながら、誰もが安全で快適に暮らせるまちをつくりま

(1) 快適な都市環境の形成

歴史や伝統文化、地域の特色を生かした歴史あるまちづくり、景観計画・条例に基づき、良好な景観形成と市街地環境の整備が図られている。一方、福岡第2地方合同庁舎の完成により、福岡駅前地区の活用、まちなかへの居住誘導施策、中心市街地の賑わい創出と活性化に資する継続的な取組みと新たな施策展開が必要とされる。

A コンパクトな市街地形成と地域のネットワークの充実

- 平成29年度に福岡市都市再興基本計画を策定し、居住誘導区域と都市機能誘導区域などを規定することで、市街地への都市機能の集積を促進している。
若原北地区の土地再開発事業について、工事は概ね完了し、保留地処分も順調に進捗しており、令和5年度末の事業完了を目指す。

イ 賑わいのある中心市街地の形成

- 旧銀座セントラルのまちづくりセンター機能を活用した起業・創業の支援や若者交流の促進、駅前通りで車道の一部を歩行者空間として活用するパークレット化の社会実験の実施など、民間事業者とも連携し賑わい創出にかかる取組を実施している。
福岡駅前のみちづくりの方針を示した「福岡駅前地区将来ビジョン」を令和4年9月に策定し、高校生とともに駅前のにぎわいづくりを進めている。
市民参加型のワークショップやフィードバックを実施し、協働のまちづくりを進めた。

ウ 高齢者施策、女性を支援した子育てのまちづくり

- 「福岡市歴史的風致維持向上計画」で設定した重点区域である、福岡公園とその周辺地区、羽黒手向地区、羽黒松ヶ岡での修景整備、施設や周辺環境を整備した。

エ 地域の持主を生かした環境形成

- 再生可能エネルギー発電施設と景観との調和や、山当て景観の保全等を盛り込んだ「福岡市景観計画」の改定に取り組みしており、良好な景観の保全に努めた。
「手向地区まちなか景観形成事業」により、統一感のある街並みの形成に取り組んだ。

オ 多様な施設を有する公園、緑地の増進と保全

- 福岡公園については、市民の意見を取り入れながら整備を実施し、正面広場については、体験施設やイベント広場などを整備している。
「赤山かわまちづくり計画」にもとづき、国と連携し、市民ワークショップ等の意見を踏まえながら、市は園路やトイレ等、国は堤防階段やスロープを整備している。
遊具等公園施設等の更新や修繕を計画的に進めるとともに災害時を見据えた機能強化とバリアフリー化を推進している。

カ バリアフリーに配慮したまちづくり

- バリアフリー化を行う住宅リフォーム工事に対して支援した。
市有建築物のバリアフリー化とユニバーサルデザインに基づいた、誰もが利用しやすい施設整備を進めた。

(2) 交流・連携の推進と基盤の整備

高速交通網の整備に向けて、要請活動や地元との機微醸成を図る取組を実施しているが、さらなる整備促進に向けて関係自治体や団体と連携して取り組んでいく必要がある。また、効率的な交通ネットワークの構築を目指す路線バスの再編や交通空白地帯解消のためデマンド交通等による運行を行っているが、コロナ禍の影響もあり利用者数は減少している。

A 東北日本海沿岸地域などとの地理と交通の促進

- 羽城本線の高速化や高速道路の整備について、沿線市町村や関係団体等と連携した要請活動を実施し、建設整備促進を働きかけた。
新潟、秋田、山形で構成する協議会により、地域と一体となった旅客施設に取組んだ。

イ 地域交通ネットワークの充実

- 日本海沿岸東北自動車道の整備促進を働きかけるとともに、風ヶ岡IC(医務院跡地)への道の駅あつみの移転整備に取り組み中。
市内関係協議会を中心に、高速交通施設の整備促進のため要請活動等を実施した。

ウ ICの活用、移動サービスの実現

- LINEを利用した新型コロナウイルスワクチン接種予約やごみ分別検索等の実施など、モバイル端末を利用した情報発信や電子申請に取り組んだ。
マイナンバーカードを活用し、コンビニエンスストア等での住民票等を交付している。

エ 幹線道路の整備

- 国道7号と国道42号の早期の整備を本市の重要要望として国などの関係機関に継続して要望している。

オ 安全・安心な市道整備と管理

- 計画的な道路拡幅や防雪槽の設置、橋梁やトンネルの補修を行い、土木施設の近代化に取り組んだ。
みゆき通りや南郷座通りの一方通行の解除を行い、利便性の向上を図り、川崎通りの一方通行解除に向けた切替整備を行った。
モデル地区における相互応援体制による効率的な掃雪を実施した。

カ 公共交通ネットワークの形成

- バス路線の再編やデマンド交通や乗合タクシー等地域の実情に合った交通手段を導入した。
市内交通では、中型車両を導入し、福岡市中心部を走る路線を増やし、高齢者などが利用しやすい路線再編を行った。
朝日、遅海地域の高等学校生等に対する通学費負担を支援した。

キ 港湾の活用と船の増進

- 港オアシスに認定された加茂港、風ヶ岡港において、PRの強化や地元と連携したイベント等を実施した。

日本海沿岸東北自動車道福岡西IC利用台数(台/日)

Table with 2 columns: 現状値 (2019年度) 7,225台, 成果指標 (2021年度) 11,500台. Includes a note: 注: 1. 2021年度は、実施: 一

平成29年度を100とした場合の路線バスなど利用者指数

Table with 2 columns: 現状値 (2019年度) 100, 成果指標 (2021年度) 82. Includes a note: 注: C



自然と都市が調和したコンパクトシティの形成を進め、交通や情報ネットワークの充実により市域内外の交流を促進しながら、誰もが安全で快適に暮らせるまちをつくりまします

(3) 安全・安心な生活基盤の整備

市営住宅の改修や住宅の耐震化への支援、地域資源を活用した住宅建設やリフォームへの支援等により良好な住環境の整備を促進している。市有公共施設については、データベース化を進め、計画的な更新等を実施できるよう取り組んでいく。上下水道事業の健全な経営と効率性の向上に取り組むとともに下水道資源を活用したヒストロト水道の取組を更に推進していく。

A 安全に暮らせる住環境づくりの推進

- 市営住宅の計画的な改修や保全の取組と、住宅確保要配慮者専用住宅に整備した住宅の改修費用や賃貸者への家賃補助を実施することで、住宅セーフティネットの構築に取り組んだ。
- 市内業者や納産木材の活用等の地域資源による住宅建設やリフォーム工事を促進するため、工事に対する補助を行った。
- つるおかランド・バンクへの支援を通じた空き家バンク事業やコンバージョン事業等を行い、空き家解消を推進した。

イ 住居・建築物の耐震化の向上

- 木造住宅の耐震化を図るため、耐震診断や耐震改修を支援した。
- 危険ブロック塀等の撤去や危険住宅の除却や修繕を支援した。

ウ 人口減少社会に対応した適切な公共施設の管理

- 安全で安定的な市有施設の利用を行うため、公共施設マネジメントシステムを導入し、市有施設のアーキテクスチャーの一元化に取り組んでいる。
- 鶴岡市役所本庁舎の耐震補強工事を実施した。(令和2年度完成)
- デジタル技術を活用した通称対策の司令塔となる朝日庁舎の再整備を推進している。(令和6年度完成予定)

E 安全な水の安定供給

- 経営基盤強化のため、包括的業務委託やアセットマネジメントの導入等を実施した。
- 安全な水の安定供給に向け、県企業局と庄内2市1町の相互・水平統合による広域化の推進に取り組んでいる。
- 計画的な水道施設の更新や耐震化を実施している。

オ 下水道処理の健全経営と効率的な運営

- 設計・施工を一括発注するDB方式による効果的かつ効果的な下水道普及地域の整備を実施した。
- 下水道資源を活用したハウス栽培や飼料用米の栽培、アユの養殖等を実施し、專業化に向けた検証をした。

カ 河川水質の維持

- 都市化や気候変動に対応するため、冠水、浸水被害の頻発な排水区への対応を実施した。

(4) 計画的な治水強化と市土の保全

近年多発する局地的豪雨による災害の未然防止や被害軽減に向けて河川整備事業や砂防事業等が推進されるよう、国や県に対して要望活動を実施している。また、地域住民やボランティア等と協力して河川や海岸の良好な景観を守るため、清掃運動を行っている。

A 河川の整備と良好な河川管理

- 治水対策の実施のため、国や県等に対し河川規制や堤防強化等の河川事業の促進について要望活動を実施している。
- 河川の維持管理と河川感護の意識向上のためボランティアによる河川清掃作業を実施した。

イ 砂防事業などの取組

- 災害の未然防止や被害軽減に向けて砂防事業等が推進されるよう、国や県に対して要望活動を実施した。

ウ 海岸の取組

- 海岸漂着物の除去及び処理のため、パトロールを行い、各海洋管理者ボランティア組織と協力しながら回収処理を実施した。
- 県に対し、堤防等海洋安全施設の整備事業の早期着手と予算確保について要望している。

河川の増水による家庭被害件数

現状値	57棟 (2019年10月)	R3実績値	0棟 (2021年度)	成果指標	0棟 (2024年度)
			進捗：A		

河川愛護団体(海岸まむ)活動団体数

現状値	58団体 (2019年度)	R3実績値	55団体 (2021年度)	成果指標	65団体 (2023年度)
			進捗：C		

住宅確保要配慮者専用住宅整備戸数(累計)

現状値	24戸 (2019年度)	R3実績値	795戸 (2021年度)	成果指標	70戸 (2024年度)
			進捗：A		

経年劣化(劣化)水道管更新延長

現状値	830m (2017年度)	R3実績値	7493m (2021年度)	成果指標	6,380m (2024年度)
			進捗：A		

# 地域の振興

各地域固有の特性や地域資源を最大限に生かし、地域住民が誇りと愛着を持ち、安心して暮らし続けることができる地域づくりを行います

## (1) 鶴岡地域

広域コミュニティ組織が行う地域特性を活かした活性化の取組や課題解決に向けた取組に対し、鶴岡地域まちづくり未来事業やアドバイザー派遣の派遣、ワークショップ支援等により多面的に支援し、住民主体による持続可能な地域づくりを推進していく。  
また、地域づくり活動への参加や業種の垣根を越えた交流を支援し、多様な学びの場の提供を行うこととで、市民の地域づくりへの関心を高めるとともに、地域づくりに係る人材の育成を図った。

### アイランドを基とした住民主体のまちづくりの推進

- ・地域ビジョンの策定や地域課題解決に向けた取組等の住民主体のまちづくり活動を、アドバイザー派遣やワークショップ支援等により多面的に支援した。
- ・「鶴岡地域まちづくり未来事業」等により未来を見すえた住民主体のまちづくり活動を支援した。

地域ビジョンの策定件数(累計)  
※鶴岡市全体分

現状値	R3実績値	成果指標
4件 (2018年度)	11件 (2021年度)	20件 (2022年度)
	進捗：B	

人材育成の取組を通じて新たに実施される地域づくりのプロジェクト件数(累計)

現状値	R3実績値	成果指標
12件 (2018年度)	27件 (2021年度)	33件 (2022年度)
	進捗：B	

## (2) 藤島地域

「庄屋うどん大作戦」は2021年県民活躍大賞を受賞するなど庄内農業高等学校の魅力を広く発信とともに、地域活性化に寄与している。  
「Hisu花」を中心とした地域づくり活動を進めており、特にイルミネーションイベントでは集客効果があるものの、今後は地元商店等への誘客、経済効果が求められる。  
交通空白地帯の解消や交通弱者対策としてデマンドタクシーを導入し実証運行事業を開始した。今後は藤島地域全域の地域公共交通の再編を図っていく。

### アイランド文化の継承と若年世代の育成

- ・農業関係者等で組織する「藤島産物販売協議会」の活動支援を通じて、技術交流の地、低コスト・省電力化技術実証圃の設置による先進技術の掌握及び「藤島元氣米」の販売など、地元産米のPRと流通拡大を図った。
- ・「庄屋うどん大作戦」をはじめとする、庄内農業高等学校と地域が連携した「庄内農業地域連携事業」を実施し、魅力ある学校づくりに取り組んだ。
- ・「ふるさと文化、交流が盛りあがるまちづくりの推進」
- ・ふじのたまつりやイルミネーション等による地域の魅力発信と誘客を推進した。
- ・伝統芸能の保存伝承のため、「藤島伝統芸能振興協会」の活動が持続できるよう支援を行った。

ふるさと文化・施設入込数

現状値	R3実績値	成果指標
21,615人 (2017年度)	30,507人 (2021年度)	36,800人 (2022年度)
	進捗：B	

### アイランドを基とした住民主体のまちづくりの推進

- ・公共交通空白地帯の解消や交通弱者対策として、デマンドタクシーの導入と実証運行に向けた検証を行った。
- ・県立温泉保養所の湯を活用した健康増進や子育て事業の支援を行い、子育てしやすい環境整備を行った。

## (3) 羽黒地域

観光看板の整理や松ヶ岡開墾場の周辺環境整備等、SNSを活用した魅力発信に取り組んでいるが、地域を回遊するしつかりが必要とされる。  
アスパラガスの生産量の回復は難しい状況にあるが、新技術導入に向けた検証を行う。また、ふるさと納税でも需要の高いブルーベリーについても生産振興を図る。

### アイランドを基とした住民主体のまちづくりの推進

- ・松ヶ岡開墾場の整備と南向地区固有の景観に調和した修景整備に対する助成制度を創設した。
- ・松ヶ岡開墾場の4・5号菜園の整備と周辺エリアの道路や多目的広場の整備、出羽三山五穀御歳年や松ヶ岡開墾150周年記念事業を実施とした。交流人口の拡大を図った。

月山・羽黒山の観光客入込客数

現状値	R3実績値	成果指標
737,200人 (2017年度)	579,800人 (2021年度)	900,000人 (2022年度)
	進捗：C	

上段：堆肥散布量(羽黒町堆肥利用量)  
下段：U/Aアスパラ新産(羽黒地域)の販売額

現状値	R3実績値	成果指標
4,757kg (2017年度)	1,940t (2021年度)	1,810t (2022年度)
9,000万円 (2017年度)	629万円 (2021年度)	1,200万円 (2022年度)
	進捗：C	

地域活動センター利用者数(4地区合計)

現状値	R3実績値	成果指標
41,842人 (2017年度)	23,032人 (2021年度)	41,900人 (2022年度)
	進捗：C	

### アイランドを基とした住民主体のまちづくりの推進

- ・自治振興会を中心としたまちづくり活動を支援した。
- ・住民主体の協議会との連携により市営バスの利用を促進した。

### アイランドの特色を生かし回遊を促す観光の推進

- ・月山高原でのひまわりの催進とPR活動を支援し、交流人口の拡大を図った。
- ・ブルーベリーのふるさと納税の登録とPR活動を支援した。
- ・アスパラガス5.7haの新規灌漑を支援したが、高齢化と病気のまん延により原産も増加した。

各地域固有の特性や地域資源を最大限に生かし、地域住民が誇りと愛着を持ち、安心して暮らし続けることができる地域づくりを行います

(4) 誘引地域

泉北振興として、「園地継承対策・後継者の確保」、「生産者の所得向上」、「産地PR」の3つを柱とする事業展開を進めているものの、経営体数や耕地面積の減少は進行している状況にある。  
黒川能など伝統芸能の後継者育成や継承活動の推進を図るとともに、観光客のサービス向上やインバウンド対応のため観光施設の整備等を実施した。  
広域コミュニティ組織の設置やデマンドタクシーの本運行に向けて取り組んでいくとともに、地域資源を活用した地域づくりを推進していく。

アフルーツの星づくりと地産地消による交流人口の拡大

- ・フルーツの専従職員によるSNSでの「くしびき」日記の配信や冊子版の作成、首都圏でのプロモーション活動の実施など、情報発信やプロモーション活動の強化を図った。
- ・会員研修やイベントなどの観光協会との事業を支援することにより、観光果樹園などの農業体験型観光の充実を図った。
- ・「たらのきだいのスキー場」では、夏の利用者を増やすため、基本計画を策定し、ひまわり観察実証実験、説明の整備を行い、「ほのかたらのきだいの」では、自然体験施設と連携するため金輪少年自然の家と意見交換を行うなど、移住旅行や農業体験受入れの体制強化を進め、観光振興や交流人口確保に取り組んだ。

イ伊川能など行事が歴史文化の学びと活用促進

- ・黒川能の後継者育成や保存伝承活動等のためデジタルアーカイブ化を進めた。
- ・丸岡城址公園や玉正会館にインバウンドに対応した多言語表記による観光パンフレットと案内看板を設置し、利用拡大を図った。

ウ コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進

- ・会員制デマンドタクシー「くしびき」の実証実験運行を開始した。
- ・くしびき温泉ゆーTownを高齢者の交流の場の創出と健康増進施設として位置付け、フレイル予防事業等を実施した。

果樹販売額(小売引支所、産直施設)

現状値	318,759千円 (2018年度)	成果指標	330,000千円 (2028年度)
R3実績値	337,350千円 (2021年度)	進捗：A	

誘引地域観光果樹園観光入込客数

現状値	13,258人 (2017年度)	成果指標	24,000人 (2028年度)
R3実績値	13,471人 (2021年度)	進捗：C	

誘引地域の年間観光入込客数

現状値	749千人 (2017年度)	成果指標	1,004千人 (2028年度)
R3実績値	624千人 (2021年度)	進捗：C	

単位自治組織の地域ビジョン策定数(全21組織・累計)

現状値	1組織 (2018年度)	成果指標	10組織 (2028年度)
R3実績値	1組織 (2021年度)	進捗：C	

(5) 朝日地域

生活環境の維持確保対策により一定程度の世帯減少率に抑制は図られたものの、農林業や観光業の担い手の確保や地域づくりを支える人材の育成が必要とされる。  
若者同士や地域とのつながりを目指して「チームWagesho(わげしょ)」が結成され、若者同士のネットワークづくりや人材育成の環境づくりを実施した。  
朝日庁舎について、デジタル技術を活用し、通称対策の司令塔としての機能を持った施設整備を進める。

ア 中心部における定住型世帯の受入

- ・大瀬地区をモデルとした「小さな拠点づくり」を推進し、既存集落の維持に努めた。
- ・地域内交通対策として、市営バスの運行や高校生等の通学費に対する支援事業を実施した。
- ・京習住宅の建築や生活道の除雪対策等に支援した。

転出による世帯減少率

現状値	△2.3% (2017年度)	成果指標	△1.5% (2028年度)
R3実績値	△1.8% (2021年度)	進捗：B	

地域内経営耕地面積の確保

現状値	843ha (2015年度)	成果指標	870ha以上 (2028年度)
R3実績値	732ha (2020年度)	進捗：C	

朝日地域への観光入込客数

現状値	526千人 (2017年度)	成果指標	530千人 (2028年度)
R3実績値	294千人 (2020年度)	進捗：C	

イ 自然・文化・歴史などを活用し、中山間地に特化した観光の展開

- ・山ぶどうをはじめとする醸造用ぶどうの生産拡大と月山ワインの販売促進(月山ワインまつり運営事業への支援、特産品の付加価値向上と生産の省力化を進める取組など)を実施した。
- ・山菜やさきのこ等について、地域資源の栽培講習会の開催等を支援し、品質及び収益性の向上を図った。

ウ 自然・文化・歴史など、地産地消を活用した観光の展開

- ・道の駅「月山」では、観光情報の発信拠点や地産産業の振興、六十里越街道での自然体験等の交流拠点として事業を展開した。
- ・関係者の声を反映した整備方針による湯殿山スキー場のリフト改修を実施している。(令和4年度完了予定)
- ・インバウンドに対応したHP整備と新たなガイド育成の取組を支援し、六十里越街道等の観光振興を強化した。

各地域固有の特性や地域資源を最大限に生かし、地域住民が誇りと愛着を持ち、安心して暮らし続けることができる地域づくりを行います

(6) 温泉地域

あつみ温泉をはじめ、地域内の観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少した一方、教育旅行の受入れ件数は大幅に増加した。また、新たな道の駅が地域の振興に寄与する拠点となるための施策を検討していく。  
 農林水産資源については、首都圏へのプロモーション活動等によりブランド力が向上したと思われるが、後継者の育成が課題とされる。  
 地域に即した乗合タクシーの実証運行や高校生の通学支援制度、地域内の共助の仕組みの構築により、地域で暮らし続けられる環境づくりを推進していく。

ア あつみ温泉と道の駅を拠点とした地域振興

- あつみ温泉の目標である「熱い新しい温泉街」実現に向けた、専門家の活用及び官民連携した働きづくりを推進した。
- あつみ温泉の桜並木の再整備と足湯などの滞在拠点の改修支援。  
「あつみ温泉はらら」整備を検討した。
- 新たなあつみ温泉のシンボルとして制作された「お湯割」や、お湯割まつりの開催を支援した。
- 関ヶ原(佐納)温泉地への「道の駅あつみ」移転に伴い、整備にかかわる地域振興施策の検討を行っている。

イ 自然・歴史・文化を生かした観光人口、関係人口の拡大

- 教育旅行の誘致や体験型観光を推進する温泉地域内のNPO法人を支援し、旅行や観光の受け入れ拡大を図った。
- 関川川を拠点としたイベント（山菜を活用したイベント、体験型イベント、しな湯まつり）の開催や、しな湯をはじめとした地元産物の販売促進への支援を行い、関川地区の交流人口の拡大を図った。
- 中学生から20代の若者を対象にSNSを活用した情報発信講座の開催、東京大学フィールドスタディ型政策提議プログラムや大学生を対象としたビジネス研修の受入れ等による関係人口の創出を図った。

ウ 産物・産品のブランド化

- 焼きそばあつみやみかぶの生産振興やPRツール（ロゴマーク、パンフレット、マグネット、PR用持ち物等）の活用、越前三角そばの加工品開発やプロモーション活動への支援を行い、認知度の向上に取り組んだ。
- 羽越しなすの技術研修、後継者育成等の取組支援や、産物先端研究等に連携した「しなのKのK」を活用したオーガニックコスメの商品化に取り組んだ。

エ 町・山・自然環境に寄り添う観光振興

- 住民ワークショップや記録、資料の編集等による乗合タクシー振興を支援した。
- 乗合タクシー実証運行の開始や高校生等の通学費に対する支援事業等を実施した。
- 生活支援コーディネーターとの連携による高齢者の買い物支援などの生活支援と、地域の主体的な活動支援や国事業の活用による除雪がラントケア体制の構築を支援し、生活環境の維持に努めた。

あつみ温泉及び関ヶ原地区内観光施設の観光入込客数(道の駅含む)

現状値	RS実績値	成果指標
478千人 (2021年度)	240千人 (2021年度)	820千人 (2025年度)
	夏砂：C	

教育旅行受入れ学校数

現状値	RS実績値	成果指標
2校 (2021年度)	43校 (増31校、日増り12校) (2021年度)	12校 (増9校、日増り11校) (2025年度)
	夏砂：A	

上段：越前三角そばの栽培面積  
下段：焼そばあつみの販売実績

現状値	RS実績値	成果指標
2,160㎡ (2021年度)	102,280㎡ (2021年度)	80,000㎡ (2025年度)
209円/kg (2021年度)	208円/kg (2021年度)	230円/kg (2025年度)
	夏砂：A	

乗合タクシー実証運行開始定自治会数

現状値	RS実績値	成果指標
11自治会 (2021年度)	12自治会 (2021年度)	27自治会 (2025年度)
	夏砂：B	

基本計画の推進に当たり、人口減少など、社会構造の変化に対応するため、個々の施策を単独で推進するだけでなく、基本計画の推進に当たり、人口減少など、社会構造の変化に対応するため、個々の施策を単独で推進するだけでなく、解決することの難しい中長期的な課題や、部署横断で取り組むことで本市の持つ強みや特性がより発揮され、相乗的な効果が期待される主な取組を「未来創造のプロジェクト」として推進します。

## 1 若者・子育て世代応援プロジェクト

- ・ 将来の担い手となる若者の地元復帰・定着を促進するため、令和3年度に「つるおおかエール奨学金返済支援制度」を創設した。また、小中学校におけるキャリア教育を推進し、地元愛着と多様な職業観の醸成、「鶴岡で働くこと」の意識づけを図った。
- ・ 臨床発達心理士の資格を持つ保育士が保護者からの相談に応じているほか、保育所等を訪問し、個々の障害の特性に合わせた関わり方等についても考え、助言を行っている。また、令和3年度から鶴岡市立おおほおば学園の専門職員を1名増員し、医療的ケア児及び発達障害児を含む障害児への包括的な支援体制を強化している。
- ・ 地元企業への就職活動を促すため、地元企業を対象に、インターンシップの目的や手法等を学ぶ企業採用力アップセミナーを行った。地元企業を紹介する動画サイトの開設や、オンラインインターン合同企業説明会を開催した。
- ・ 首都圏等での移住相談会へ参加や、地元出身者向けの「鶴岡Uターンサポートプログラム」や「帰郷者交流会」を開催し、鶴岡の情報提供を行った。また、お試し住宅等を活用し移住生活を体験してもらうことにより、移住後のミスマッチを軽減するなど、移住に係る不安解消に努めた。
- ・ コロナ禍によりイベント数が減少し、若者の出会いの機会が減っているが、つるおおかエールジュエによるお見合い支援を継続するとともに、ショッピングモールでの結婚相談会を開催した。また、令和3年度には6名の新規つるおおかエールジュエを認定し、世話焼き委員会の体制強化を図った。
- ・ 市民によるまちづくり活動の促進を目的として、令和元年度に「鶴岡市市民まちづくり活動促進事業（鶴岡まち活）」を創設。若者コースとして、若者が自発的に行うまちづくり活動や地域についての自由研究を支援した。

## 2 全世代全対象型地域包括ケア推進プロジェクト

- ・ 高齢者・障害者・子ども・生活困難者に限らず、いずれの分野にも属さない人や複雑複合的な課題を抱える人や世帯などが、身近な地域で包括的な相談支援を受けられる体制の構築及び、関係機関・住民の連携・協働によるアウトリーチ支援並びに社会参加の促進支援等が一体となった重層的な支援体制の構築を目指し、令和4年度から準備を開始している。
- ・ 地域医療や介護の実態把握と連携する場合の課題を整理した。また、切れ目のない在宅医療と在宅介護のあり方について鶴岡地区医師会と荘内病院とともに検討した。
- ・ 平成31年に地域医療を担当する部署として「地域包括ケア推進室」を設置した。地域全体で心の通い合う地域医療を実現するため、市民の声を聴く「鶴岡市地域医療を考える市民委員会」を設置した。3か年に渡る検討を経て、10年後の鶴岡市の地域医療の未来像を描き、その実現のための指針として「鶴岡市地域医療市民アクションプラン」を策定した。
- ・ 県の農福連携推進センターが、福祉事業者と農業者等とのマッチングを行っている一方で、農福連携の取組件数は増加している。今後の展開については、県やIAと連携し、課題を共有しながら取組を進めていく。

## 3 食文化・食産業創造プロジェクト

- ・ 地魚の消費拡大に向けて「魚のおいしいまち鶴岡キャンペーン」を展開し、飲食店や旅館と連携した消費拡大キャンペーン、学校給食への納入支援、低利用魚の利用拡大、料理教室等に取り組んだ。
- ・ 料理人や生産者を対象としたアカデミー・ワールドスタディー事業や、若手料理人を対象としたオリエンテーションセミナー等を実施するとともに、技術向上を目的とする研修活動を支援した。
- ・ 料理人の人材確保を図るため、調理師学校の生徒や食文化に関心がある方を対象とした料理人短期研修型インターンシップ事業を実施した。
- ・ 地域自給園形成支援事業において、山形大学を主体とする地域農業者、加工業者、小売業者とのネットワーク構築、耕運連携によるワインナーなどの加工品開発を支援した。
- ・ 食文化を生かした誘客や交流の促進を図るため、首都圏プロモーションやイベント重点期間「ふうどフェスタ」の展開、「食イベントカレンダー」の公開、豊かな食の郷土づくりカンファレンス（11/19予定）等からなる「食と食文化の魅力プロモーション事業」に取り組んだ。
- ・ 食や食文化の魅力を探信する「鶴岡ふどうガイド」を育成し、市内外の旅行業者と連携した食文化体験ツアーの造成、食文化体験講座等に取り組んだ。
- ・ 食文化の再発見・継承に向けて、「つるおおか伝統菓子（鶴岡雑菓子、笹巻、とちもち）」の歴史・現状調査を実施するとともに、「つるおおかおうち御膳」の改訂、「鶴岡型ESD（食文化の学びを通じたシビヒックブライトの醸成）」の検討に取り組んだ。

## 4 産業強化イノベーションプロジェクト

- ・ サイエンスパークにある市先端研究産業支援センターでは、レンタルラボ62室が満室となっており、新たに研究機関やベンチャー企業等を誘致できないことから、20室のレンタルラボからなる新棟（7棟）の整備を行っている。
- ・ 鶴岡みらい健康調査（25年の長期にわたるコホート研究）では、代謝物の傾向から、病気になる可能性を早期に予測して、それを予防する健康施策の実現に取り組んでいる。また、がんなどの早期発見と予防につながる次世代の診断と治療法などの開発も目指している。
- ・ 令和3年度から、国立がん研究センター東病院と荘内病院が連携して、遠隔診療の実践と検証によるがん地域医療モデルの構築に取り組んできた。
- ・ 新たな産業団地の開発を念頭に、ニーズ調査や現地調査に取り組んだ。今後は、開発区域、手法、実施体制を定めた上で、関係者との協議・調整など、開発の具体化に着手する予定。

基本計画の推進に当たり、人口減少など、社会構造の変化に対応するため、個々の施策を単独で推進するだけではなく、解決することの難しい中長期的な課題や、部署横断で取り組むことで本市の持つ強みや特性がより発揮され、相乗的な効果が期待される主な取組を「未来創造のプロジェクト」として推進します。

## 5 城下町つるおかりプランディングプロジェクト

- 城下のまち鶴岡前米構想事業では、鶴岡駅前地区の課題解決に向けた将来ビジョンを策定し、市有施設であるマリカ東館等の今後の整備・運営方針を定めた。
- 松ヶ岡開墾150年記念事業や酒井家庄内入部400年記念事業では、本市の歴史や文化の学びを深め、シビックプライド・郷土愛を高める取り組みを進めている。
- 歴史と文化に触れる機会を提供するため、文化財めぐりを行った。また、酒井家墓所をはじめとするとする未指定文化財については、これまでの調査により、少しずつ歴史の価値が明らかになりつつある。
- 重要文化財旧西田川郡役所などの歴史的建造物の保存修理、修景整備の支援等により、建造物の保存と活用、一般公開等による普及啓発が図られた。今後は、3つの日本遺産の認定、松ヶ岡開墾150年、酒井家庄内入部400年を契機として、国内外からのさらなる認知度向上に努める必要がある。
- 大宝館をはじめとするとする歴史的建造物の適切な維持管理と保存修理を行い、城下町の風情を守り伝える取り組みを進めている。
- 酒井家庄内入部400年に関連した首都圏プロモーション等を展開したほか、本市の歴史や文化を活かした観光資源としたモデルルートを構築し、交流人口の拡大に努めた。

## 6 輝く女性活躍推進プロジェクト

- 男女が互いに協力する社会づくりについては、令和3年3月に第2次男女共同参画計画を策定し、4つの基本方針に基づき取組みを実施している。その取組については、外部有識者からなる男女共同参画推進懇話会から意見を聴取し、毎年進捗管理を行っている。また啓発のため、概要リーフレットなど市内公共施設等に配布・設置して周知を図っている。
- 女性の活躍、働き方改革については、市役所において、市職員の女性登用と活躍の場の拡大に配慮し、係長級以上の職に積極的に女性を登用を図っている。市審議会等委員の女性比率の向上では、専門的な知識を有する新たな女性の発掘や、充て職の仕組み自体を見直すなど積極的に女性委員の選任に取組み、女性の視点や意見を市の施策に反映させている。加えて、男性職員の育児休業取得促進や超過勤務の縮減、フレックスタイム制度の導入やテレワークの試行を行い、働き方改革に向けた取組を行っている。
- 女性同士の交流や学習機会の充実については、自分らしく生きるとの気づきやヒントを得て、繋がりがづくりの機会とする「つるおかりCafe」を本プロジェクトのリリーディング事業として部署連携の上、開催した。また、中央公民館女性センターの令和3年度のかがやき女性塾でも、職業支援や家庭支援に関する講座等を開催し、ジェンダーをテーマにジェンダーバイアスや性の多様性について学ぶ機会を提供した。
- 行政と企業の連携によるワーキングフライバランスの実現に向けた職場の条件整備については、市内企業に対し、働き方に関わる研修会や講習会の情報提供を行っている。また、庄内産業振興センターを通じ、産業界及び教育機関と連携して各種教育訓練や研修等を実施したほか、中小企業が主体的に取り組む社内研修にに対し助成を行っている。加えて、国や県と連携して「正社員化促進事業奨励金事業」を実施し、市内事業所による若年層や女性の正社員化を促進した。

## 7 地域国際化SDGs推進プロジェクト

- 多文化共生推進事業では、コロナ禍による公共施設の利用停止に対応し、日本語教室をオンラインで実施したほか、電話やオンラインでの相談対応やSNS等による情報提供など在住外国人支援に取り組んだ。
- 国際観光の推進では、駅前の観光案内所への多言語対応スタッフの配置や観光施設へWi-Fi環境を整備した。また、インバウンド向けオンライン旅行記事の掲載や、ユーザーレビューなどを活用し本市の旅行情報を発信した。
- パラリンピック競技大会でのホストタウン相手国の事前合宿受け入れを推進するため、スポーツ施設においてトイレ洋式化等のバリアフリー化を実施した。また、心のバリアフリー研修会やバリアフリーまち点検を行い、地元の高校生がバリア自体に対する考え方（社会モデル）について学んだ。
- 自然学習交流館「ほどとあり」を中心に、自然学習、小学校総合学習等の受入れ、ワークショップ等のイベントを実施し、多様な生態系の保全と価値の再認識を図った。
- 森林環境教育の推進では、子供たちに森林の身近さや多様な自然環境を体感させる森林学習を行ったほか、森林活動に関心のある市民に間伐や下刈りなどの森林整備作業を体験できる実習事業を行った。
- 令和3年4月に稼働した新しいごみ焼却施設では、ごみ焼却で発生する熱エネルギーを取り組むを行い、市内の小中学校等、地域への電力供給を行うことで「電力の地産地消」に取り組んだ。
- 食に関わる生産者や漁師などの食文化を担う「人」にスポットを当てた食文化テキスト「食を紡ぐ人々」を市内小学校へ配布し、授業等で活用することで、食文化の理解促進や継承、海の豊かさなど、食文化を軸としたSDGsへの貢献についての学びを進めた。
- 令和3年度に、SDGsの推進に繋がる取り組みを行っている企業や団体等を登録する「つるおかりSDGs推進パートナー」制度を創設した。企業・団体等のSDGsの理念に沿った取組を見える化するとともに、市民、幅広い市内企業・団体等の参画を促し、SDGsに取り組む主体のすそ野を拡大した。

施策の成果指標 (KPI) 進捗状況

資料 4  
令和4年10月31日  
総合計画推進委員会資料  
(委員意見反映後)

【A】：成果指標とする数値を達成した  
【B】：成果指標とする数値の達成に向け現状値(初期値)から進展がある  
【C】：現状値(初期値)から進展がない又は後退した  
【-】：データが未集計若しくは有効な数値がない

評価	A	B	C
合計	17	26	29
			4

評価A	評価B	評価C
<p><b>評価A</b></p> <p>【施策の大綱1 暮らしと防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>刑法犯罪認知件数</li> <li>年間交通事故死傷者数</li> <li>移住定住施策による移住件数(年間)</li> <li>温室効果ガスの削減(2015年の温室効果ガス排出量を基準とした削減率)</li> <li>マイナンバーカードの交付率</li> </ul> <p>【施策の大綱2 福祉と医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉施設に通所している利用者のうち、企業などと雇用契約を結び就労した人数</li> <li>要介護認定率</li> </ul> <p>【施策の大綱3 学びと交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習講座に参加した市民の満足度</li> <li>成人週3回以上の運動実施率</li> <li>給食がおいしいと思う児童生徒の割合</li> <li>給食を残さず食べる児童生徒の割合</li> </ul> <p>【施策の大綱4 社会の基盤】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住宅確保要配慮者専用住宅登録戸数(累計)</li> <li>経年劣化(老朽化)水道管路更新延長</li> <li>河川の増水による家屋被害件数</li> </ul> <p>【施策の大綱7 地域の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>果樹販売額(JA瀬引支所、産直施設)</li> <li>教育旅行受入れ学校数 ※温海地域</li> <li>越沢三角そばの栽培面積、焼き畑あつみかぶの販売単価</li> </ul>	<p><b>評価B</b></p> <p>【施策の大綱1 暮らしと防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域ビジョンの策定件数</li> <li>つるおかコンシェルジュの世話焼き活動による婚姻数(累計)</li> <li>地区防災計画策定組数(累計)</li> <li>出火率(人口1万人あたりの出火件数)</li> <li>2018(平成30)年都道府県の統計値と比較して人口減少や高齢化が抑制されたモデル地区数(累計)</li> <li>エネルギー自給率</li> </ul> <p>【施策の大綱2 福祉と医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内病院における患者サービスの満足度指数</li> </ul> <p>【施策の大綱3 学びと交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感を感じている子ども</li> <li>他者との協働や共生について考えている子ども</li> <li>学んだことを日常に生かそうとする子ども</li> <li>高等教育機関等から誕生したベンチャー企業の40歳未満の従業員数</li> <li>市立図書館における15歳以下1人あたりの年間児童図書貸出冊数</li> <li>成人週1回以上の運動実施率</li> </ul> <p>【施策の大綱4 農・林・水産業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者数、うち新規参入者数</li> <li>有機米の作付面積</li> <li>産直施設の販売額</li> <li>木材生産量(民有林)</li> </ul> <p>【施策の大綱5 商工と観光】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規高等学校卒業業者就職者のうち市内就職率の割合</li> <li>本社を福岡に置くベンチャー企業の40歳未満の従業員(役員(非常勤を除く)及び正社員)数</li> </ul> <p>【施策の大綱7 地域の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域ビジョンの策定件数(累計) ※福岡市全体分</li> <li>人材育成の取組を通じて新たに実施される集落づくりのプロジェクト数(累計)</li> <li>農業収入1,000万円以上の経営体割合</li> <li>ふじ関連イベント・施設入込数</li> <li>藩島地域の年間人口減少率</li> <li>転出による世帯減少率 ※朝日地域</li> <li>集落ビジョン策定自治体会数 ※温海地域</li> </ul>	<p><b>評価C</b></p> <p>【施策の大綱1 暮らしと防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ごみの資源化率(ごみ総量のうち再資源化した割合)</li> </ul> <p>【施策の大綱2 福祉と医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>がん検診受診率</li> <li>自殺死亡率(人口10万人対)</li> <li>自立型支援事業の対象である生活困窮者のうち、支援により就労につながった人数(年間)</li> </ul> <p>【施策の大綱3 学びと交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭教育支援講座を実施した施設割合</li> <li>文化芸術活動の参加者数</li> <li>文化財施設入館者数</li> <li>行政及び民間における相互交流件数</li> <li>外国語講座及び日本語講座受講者数</li> </ul> <p>【施策の大綱4 農・林・水産業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業産出額、うち園芸作物(野菜・果物・花き)</li> <li>生産額 ※水揚げ額</li> <li>魚価</li> </ul> <p>【施策の大綱5 商工と観光】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中心商店街における自転車歩行者数(休日・平日の平均)</li> <li>中心商店街における空き店舗率</li> <li>高等教育機関・研究機関の研究成果などから誕生した本社を福岡市に置くベンチャー企業(従業員4名以上)の数</li> <li>観光客入込客数</li> <li>外国人延べ宿泊者数</li> </ul> <p>【施策の大綱6 社会の基盤】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地居住人口の市内総人口に占める割合</li> <li>平成29年度を100とした場合の路線バスなどを利用者指数</li> <li>河川愛護団体(海岸含む)活動団体数</li> </ul> <p>【施策の大綱7 地域の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>月山・羽黒山の観光客入込数</li> <li>堆肥配布量(羽黒町堆肥利用組合)、JAアスパラ部会(羽黒地域)の販売額</li> <li>地域活動センター利用者数(4地区合計) ※羽黒地域</li> <li>瀬引地域観光果樹園観光客入込客数(11施設)</li> <li>瀬引地域の年間観光客入込客数</li> <li>単位自治組織の地域ビジョン策定数(全21組織・累計) ※瀬引地域</li> <li>地域内経営耕地面積の確保 ※朝日地域</li> <li>朝日地域への観光入込客数</li> <li>あつみ温泉及び鳳ヶ岡地区内観光施設への観光入込客数(道の駅含む)</li> </ul>
<p><b>評価一</b></p> <p>【施策の大綱2 福祉と医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市の「子育てのしやすさ」の評価で「しやすけい」又は「ややしやすけい」と回答した保護者の割合(アンケート調査の未実施のため)</li> </ul> <p>【施策の大綱3 学びと交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内のいきいき子育て応援企業優良企業・実践企業数</li> <li>(令和元年度、県による新規集積が終了のため)</li> </ul> <p>【施策の大綱5 商工と観光】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>従事者一人あたりの商工業等生産額</li> <li>(根拠とする経済センサスの結果が公表に至っていないため)</li> </ul> <p>【施策の大綱6 社会の基盤】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本海沿岸東北自動車道福岡西IC利用台数</li> <li>(酒田河川国道事務所による利用台数が非公表となったため)</li> </ul>		

施策の成果指標 (KPI) C 評価の要因について

コロナの影響もあつた項目 (24/29項目)

コロナによる影響	評価Cとなった項目(上段)とその要因(下段)	現状値	実績値	成果指標
	【施策の大綱(暮らしと防災)】 ○ ごみの資源化率(ごみ総量のうち再資源化した割合) コロナ禍における集団資源回収運動の実施回数、リサイクルルートの多様化により市で把握できない再資源量が増加	12.0% (2017年)	11.7% (2021年)	15.4% (2028年)
	【施策の大綱(福祉と医療)】 ○ がん検診受診率 コロナ禍における集団検診や人間ドックの中止や受検控え	①胃がん 32.7% ②大腸がん 38.9% ③肺がん 41.1% ④乳がん 23.7% ⑤子宮がん 32.6% (2017年度)	① 29.7% ② 37.9% ③ 39.4% ④ 20.4% ⑤ 30.4% (2021年度)	① 36.6% ② 41.2% ③ 43.9% ④ 24.7% ⑤ 35.0% (2028年度)
	○ 自殺死亡率(人口10万人対) コロナ禍における人との接触機会の減少とその長期化を要因とする人間関係の悪化や経済環境の悪化による雇用の不安定化	16.4 (2017年)	20.5 (2021年)	15.0以下 (2028年)
	○ 自立相談支援事業の対象である生活困窮者のうち、支援により就労につながった人数(年間) コロナによる経済の停滞や雇止め	46人 (2017年度)	45人 (2021年度)	90人 (2028年度)
	【施策の大綱(学びと交流)】 ○ 家庭教育支援講座を実施した施設割合 感染拡大による幼稚園や小中学校での子どもの成長各期に応じた講座や懇談会の中止	46.8% (2017年度)	24.5% (2021年度)	70.0% (2028年度)
	○ 文化芸術活動の参加者数 感染拡大による施設(コミセンや中央公民館等)の休館やイベントの中止、活動の自粛	107,810人 (2017年度)	90,177人 (2021年度)	195,980人 (2028年度)
	○ 文化財施設入館者数 感染拡大による観光客等来訪者の減少	916,000人 (2017年度)	680,464人 (2021年度)	1,026,000人 (2028年度)
	○ 行政及び民間における相互交流件数 感染拡大による観光客等来訪者の減少	18件 (2018年度)	8件 (2021年度)	25件 (2028年度)
	○ 外国語講座及び日本語講座受講者数 感染拡大による友好都市とのイベント、記念式典等の中止	1,588人 (2017年度)	987人 (2021年度)	1,661人 (2028年度)
	○ 感染拡大による会議(出羽庄内国際村)の休館や講座の休講 感染拡大による会議(出羽庄内国際村)の休館や講座の休講			
	【施策の大綱(農・林・水産業)】 ○ 上段：農業産出額、(野菜・果物・花き) 下段：うち園芸作物 水稲の価格低迷、担い手の高齢化や労働力の確保困難による生産量の減少、産地間競争の激化	307億 140億 (2016年度)	307.4億 134.9億 (2021年度)	400億 200億 (2028年度)
	○ 生産額 ※水揚げ額 水稲の価格低迷、担い手の高齢化や労働力の確保困難による生産量の減少、産地間競争の激化	14.0億円 (2015~2017年度平均)	10.8億円 (2021年度)	17.0億円 (2028年度)
	○ コロナ禍における需要減による価格低下 生産額 ※水揚げ額 コロナ禍における需要減による価格低下	493円/kg (2015~2017年度平均)	476円/kg (2021年度)	590円/kg (2028年度)
	【施策の大綱(商工と観光)】 ○ 中心商店街における自転車歩行者数(休日・平日の平均) 感染拡大による行動制限等、外出機会の減少	3,843人 (2017年度)	2,878人 (2021年度)	4,281人 (2028年度)
	○ 中心商店街における空き店舗率 店舗利用客の減少、コロナによる経済の低迷に伴う新規出店を上回る空き店舗数の増加	8.3% (2017年度)	10.9% (2021年度)	4.5% (2028年度)
	○ 高等教育機関・研究機関の研究成果などから誕生した本社を構内に置くベンチャー企業(従業員4名以上)の数 2021(令和3)年度に新たなベンチャー企業が2社誕生したが、いずれも従業員数が4名未満のため非計上	5社 (2018年度)	5社 (2021年度)	9社 (2028年度)
	○ 観光客入込客数 コロナによる行動制限等、外出機会の減少	631万人 (2019年度)	383万人 (2021年度)	790万人 (2028年度)
	○ 外国人延べ宿泊者数 コロナによる行動制限や国内での移動制限	13,000人 (2019年度)	1,075人 (2021年度)	60,000人 (2028年度)



コロナによる影響	評価Gとなった項目(上段)とその要因(下段)	現状値	実績値	成果指標
	【施策の大綱6 社会の基盤】 ・ 中心市街地居住人口の市内総人口に占める割合 人口減少の進行と郊外地の開発による中心市街地の空洞化、経済の低迷による空き店舗、空き家の増加 ・ 平成29年度を100とした場合の路線バスなどを利用者指数 人口減少、特に高校生等学生数の減少に伴う利用客の減少、コロナによる観光客等の来訪者の公共交通機関の利用控え ・ 河川愛護団体(海岸含む)で活動を行った団体数 コロナによる行動自粛に伴う活動制限、団体構成員の高齢化に伴う参加者の減少	5.4% (2017年度) 100 (2017年度) 58団体 (2018年度)	5.3% (2021年度) 82 (2021年度) 55団体 (2021年度)	5.6% (2028年度) 103 (2028年度) 55団体 (2028年度)
	【施策の大綱7 地域の振興】 ・ 月山・羽黒山の観光客入込数 コロナによる行動制限等、外出機会の減少 ・ 上段：堆肥布置(羽黒町堆肥利用組合) 下段：JAアスパラ部会(羽黒地域)の販売額 アスパラ：高齢化による廃園、大雨・病害による収穫量の減少 ・ 地域活動センター利用者数(4地区合計) ※羽黒地域 感染拡大による施設の休館やイベントの中止、活動の自粛 ・ 柳引地域観光果樹園観光入込客数 コロナによる休園や観光客の減少、果樹農家の担い手不足による廃園 ・ 柳引地域の年間観光入込客数(11施設) コロナによる行動制限等、外出機会の減少 ・ 単位自治組織の地域ビジョン策定数(全21組織・累計) ※柳引地域 コロナによる自治会活動の中止・縮小による策定検討機会の減少 ・ 地域内経営継地面積の確保 ※朝日地域 高齢化による離農や後継者不足、条件不利地での作付けの見送り ・ 朝日地域への観光入込客数 コロナによる行動制限やイベントの中止・縮小 ・ あつみ温泉及び畷ヶ岡地区内観光施設への観光入込客数(道の駅含む) コロナによる行動制限やイベントの中止・縮小	737,200人 (2017年度) 1,757t 4,000万円 (2017年度) 41,842人 (2017年度) 18,258人 (2017年度) 748千人 (2017年度) 1組織 (2018年度) 843ha (2015年度) 526千人 (2017年度) 478千人 (2017年度)	579,800人 (2021年度) 1,940t 629万円 (2021年度) 23,032人 (2021年度) 13,471人 (2021年度) 621千人 (2021年度) 1組織 (2021年度) 732ha (2020年度) 234千人 (2020年度) 240千人 (2021年度)	800,000人 (2028年度) 1,810t 1億2000万円 (2028年度) 41,900人 (2028年度) 24,000人 (2028年度) 1,004千人 (2028年度) 10組織 (2028年度) 820ha (2028年度) 530千人 (2028年度) 820千人 (2028年度)

＜参考＞ コロナの影響もあり取組が推進された項目(評価A・B)

評価A・B	取組が推進された項目(上段)とその要因(下段)	現状値	実績値	成果指標
	コロナにより取組が推進された項目(上段)とその要因(下段) 【施策の大綱5 暮らしと防災】 ・ 移住定住施策による移住件数(年間) コロナによるテレワークの促進や地方回帰・移転の気運の高まり 【施策の大綱5 商工と観光】 ・ 新規高等学校卒業生就職者のうち市内就職率の割合 コロナによる地元志向の上昇 【施策の大綱7 地域の振興】 ・ 教育旅行受入れ学校数 ※温海地域 コロナ禍におけるマイクログリーンズの需要の高まり	39件 (2017年度) 45.0% (2018年度) 2校 (日帰り) (2017年度)	69件 (2021年度) 54.8% (2021年度) 43校 (宿泊31校、 日帰り12校) (2021年度)	55件 (2028年度) 66.7% (2028年度) 12校 (宿泊6校、 日帰り6校) (2028年度)

